

女性現実研究所 資料『女性現実物語』

性被害・性依存・性的倒錯・性症状調査研究報告コホート

女性の性器神経症と性的心理

まるで物語のような女性の現実に寄せて

初版：2004年5月2日

最終更新：2019年9月15日

～ 著者 ～

◆女性現実研究所 代表スタッフ (代表ウォッチャー、男女)

～ 編者 (女性からのご相談、ご投稿、情報提供の受付および本著の編集) ～

◆女性現実研究所 幹部女性スタッフ (幹部女性ウォッチャー) 一同

～ ご協力者 (代表および幹部女性スタッフ一同より厚く御礼申し上げます) ～

◆女性現実研究所 一般女性スタッフ (一般女性ウォッチャー) の皆様

(社会人女性スタッフ、主婦スタッフ、女子大学生スタッフ、女子高校生スタッフ)

◆女性現実研究所にご相談、ご投稿、情報提供して下さった全ての女性の皆様

(本著では、女性ご本人から公表のご希望やご許可を頂いた事例のみを取り上げておりますが、全ての女性にメール返信や面談などの個別対応を行っております。)

目次

1. 性器神経症とは？

1) 性器神経症の報告例

- あ) PGAD 女性からのご相談例「心の調子と性器との関係」
- い) PGAD 女性からのご相談例「意図しない淫乱に生きて」
- う) PGAD 女性からのご相談例「拒食、過食嘔吐、オナニー、自己嫌悪」
- え) むずむず性器症候群女性からのご相談例「オナニーばかりの生活」
- お) 陰核過敏症女性からのご相談例「私の非情なクリトリス」
- か) 肛門痙攣女性からのご相談例「肛門痙攣のつらさ」
- き) ワギニズムス女性からのご相談例「バイブやディルドだけを受け入れる私の体」
- く) ヴルヴォディニア女性からのご相談例「ヴルヴォディニアとの付き合い」

2) 性器神経症の概要

2. 持続性性喚起症候群 (PGAD・PSAS)、むずむず性器症候群 (ReGS・RGS)

1) PGAD・ReGS とは？

2) 症状と原因は女性によってさまざま

3) PGAD・ReGS の詳しい症状

4) PGAD・ReGS の詳しい原因

- あ) 心理的な原因の場合 (8割くらいはこれが原因)
- い) 経験的・身体的な原因の場合 (性器を長期間に渡り使用しないこと、
いわば「性器の運動不足」による何らかの身体異常)
- う) 体・姿勢・神経系・骨格・筋肉などのゆがみが原因の場合
(生活習慣や病気によるもの、生まれつきのもの、など)
- え) チック症、トゥレット障害が原因の場合
- お) 外傷・手術が原因の場合
- か) 薬の副作用が原因の場合
- き) 尿意の我慢、便秘が原因の場合
- く) 生理が原因の場合
- け) 年齢的な原因の場合
- こ) 性感染症・性病が原因の場合

5) 日本での認知度と扱っている診療科

6) 社会生活・職業選択の難しさとりハビリ

7) レイプ・強制わいせつ・痴漢被害の喜びと PGAD

(日本女性の「襲われたい」願望の歴史)

8) PGAD・ReGS 治療の先進国アメリカ・オランダと、解説サイト (海外) の紹介

9) 日本 (や韓国・中国) での PGAD・ReGS のとらえ方と、

解説サイト (国内) の紹介

- 10) PGAD・ReGS の解説動画 (海外でのニュース・特集や日本人の作成動画)
- 11) 治療・外科手術のための海外渡航について
3. PGAD と陰核過敏症 (クリトリス痙攣)
4. PGAD と vulvodynia (Vulvodynia)、
ワギニズムス (膣痙攣・膣痙攣・Vaginismus)、
クリトロディニア (Clitorodinia)、肛門痙攣
5. PGAD と乳頭・乳輪・乳房過敏、
副乳頭 (Polythelia)・副乳輪 (Polythelia Areolaris)・副乳房 (Polymastia) 過敏
6. 性器神経症の症例の記録と研究
 - 1) 持続性性喚起症候群 (PGAD・PSAS)、むずむず性器症候群 (ReGS・RGS)、
陰核過敏症 (クリトリス痙攣) の症例の記録と研究
 - 2) vulvodynia (Vulvodynia)、ワギニズムス (膣痙攣・膣痙攣・Vaginismus)、
クリトロディニア (Clitorodinia) の症例の記録と研究
 - 3) 肛門過敏症 (肛門痙攣) の症例の記録と研究
 - 4) 乳頭・乳輪・乳房過敏の症例の記録と研究
7. PGAD 女性の「自殺か AV 出演か」問題
8. PGAD とニンフォマニア (女子色情症)、パラフィリア (性的倒錯)、フェティシズム、
性依存症
 - 1) ニンフォマニア (女子色情症)、パラフィリア (性的倒錯)、フェティシズム、
性依存症の解説
 - 2) パラフィリア (性的倒錯)、フェティシズムの類型リストおよび
女現研連携シェアハウスでの対応
9. 汚言症・猥褻語多用癖・猥語性愛 (コプロラリア・Coprolalia) と、
短歌・俳句・川柳によるリハビリ
10. 異食症 (ピカ・ピサ・Pica) とパラフィリア (性的倒錯)、性器神経症

ご協力女性など (被写体女性を含む) による性器神経症・性的心理の告白サイト一覧
(おもに女現研への相談やシェアハウスへの入居以前のもの)

1. 性器神経症とは？

1) 性器神経症の報告例

あ) PGAD 女性からのご相談例「心の調子と性器との関係」

「私はメンタルに病気を抱えており、これまで、やや一般の女性とは異なるタイプの（激しさの意味で）自慰行為をしてきました。あるとき、いつものように絶頂に達しましたが、そのまま絶頂感が終わらなくなりました。

数時間後に収まりましたが、数日後に体をよじったときに（直前に性器への刺激などはない）絶頂が始まり、その場にうずくまるということを経験しました。お恥ずかしい話ですが、ディルドなどで性器を痛めるようなピストンをしていると、絶頂のスイッチが入ったままになるのではないかと予想しています。

ただ、婦人科では、それが原因ではなく、精神的なことから生じている絶頂なので、残念ながら担当外と言われました。実際、異常は見つからなかったと言われました。私の脳（心）と性器との関係のあり方から来る、神経の過剰な作動が原因だそうです。心の調子が悪いときに、無理に性的な行動を使って元気になろうとして、激しいピストンオナニーをすると、脳がうまく対応できず、スイッチがオフになりにくくなるのだと思います。

ほかに相談場所や専門医がどこにも見当たらず（婦人科でもお手上げでした）、つまらない仮説だけでも聞いていただければと思い、ご相談させていただきました。」

い) PGAD 女性からのご相談例「意図しない淫乱に生きて」

「あるときから、なぜそのタイミングだか分からないままに、自慰行為をしたあとに快感が止まらなくなりました。高校生のときでした。

波はあったものの、数日経っても止まらなかったもので、婦人科に行きましたが、よく分からないと言われ、精神的なものでしょうと見なされて帰されました。

思い返せば、自慰行為の方法が個性的かもしれないかもしれませんが、それだけが原因ではないと思っています。それよりは、母親から受けた性的虐待の影響が大きいと思っています。わたしは、母親が母親の愛人の相手をできないとき（母親が疲れているときや、ごはんの準備中・あとかたづけ中など）に、母親の代わりに母親の愛人のペニスを舐めたり入れられたりする役割でした。夜は、母親も加わって、母親からも体に虐待を受けました。

時々、快感だけでなく、意図していないときにも性欲らしきものを覚えることもあり、その快感や性欲自体に自分で嫌悪したり憎んだりする状態になりました。これは、頭が性欲を発しているのではなく、性器が性欲を発しているのに頭はそのことに反対している状態です。それは、性器だけはそういう装置だ、人を喜ばせるマシンだということにしない

いと、乗り越えられなかったからかもしれません。

さすがにまずいと思っているうちに、頭や言動がおかしくなり、精神科・心療内科にかかることになりました。でも、精神科・心療内科にも本当のことは言っていません。

しばらくして、女現研を知り、コンタクトをとったところ、まだできたばかりで空きがあったので、寮にも入れることになりました。わたしは本当に運がよすぎたと思っています。同じような育ち方をした友だちも作れました。わたしは、ここを離れると死ぬだろうと分かっています。帰る場所がここしかありませんが、それではいけないこともどこかでは分かっています。

母親にも、人生で一度だけ、自分がPGADで、性的快感が止まらない状態にあることを、勇気を持って打ち明けましたが、母親と愛人のテクニックのおかげだと言われ、理解されることはありませんでした。」

う) PGAD 女性からのご相談例「拒食、過食嘔吐、オナニー、自己嫌悪」

「小学生の頃、拒食症になり、それ以降は拒食と過食嘔吐を繰り返しています。

20代後半になりましたが、拒食、過食嘔吐、オナニーという私なりの儀式だけが心のよりどころで、人間を愛したり頼ったりするよりも救われた気持ちになります。ただ、したあとは、自己嫌悪や罪悪感で気分が沈みます。

友だちの一人には言ったことで、ほかの人には言えませんが（親や先生にも）、わたしは性的な気持ちよさが半日くらい止まらなくなる症状が出ています。いった状態がそのまま続いている状態です。

自分という存在を認めて、生きることを楽しめるようになりたいですが、研究所さまのサイトを読ませていただき、こんな話を聞いていただけそうな方だと思ったので、メールさせていただきました。」

え) むずむず性器症候群女性からのご相談例「自慰ばかりの生活」

「クリトリスや膣がムズムズしており、自慰をしてもおさまりません。どっちにしろ、ムズムズ感が取れず、日常生活に支障をきたしております。ムズムズ感に集中してしまい、注意力散漫になってしまいました。昨日自慰を5回繰り返すと、出血を伴ってしまいました。」

お) 陰核過敏症女性からのご相談例「私の非情なクリトリス」

「私は、クリトリスや乳首が異常に敏感なので、普通に外出することができません。それがPGADという病気だと知ったのは、2008年くらいだったと思います。」

不謹慎ですが、この病気に苦しんで自殺した女性がいると知って、むしろ心が楽になりました。私一人ではないと知ったからです。

私の原因は、マスターベーションの仕方なのか、薬なのか、手術（クリトリスではない）なのか、よくわかりません。ただ、本当の原因は、幼い頃の男性教師からの暴力だということは感じています。それに対抗するために、雌として本能的なオーガズムが出てきたと思います。

「私のクリトリスは非情だ。私に対してあまりにも冷たい。」・・・これが私の結論です。

下着にこすれるだけで、達してしまうこともあるので、道端でうずくまることもあり、本当に恥ずかしく、正直、生きていることが申し訳ないと思うこともあります。カフェや電車の椅子に普通に座れないことは、生きていてショックと言うしかありません。

そのうち、一人暮らしをして室内で自由に裸で（または、ノーパン・ノーブラで）過ごしたいと思うようになりましたが、週五で正規で働けるわけがなく、ずっと家族と同居するしかなく、実行できずにしんどくなるばかりでした。あのまま行けば、気が狂っていたかもしれません。

女性現実研究所様に出会い、連携する寮に入寮させていただいてからは、内職をしながらリハビリに取り組んでいます。」

か) 肛門痙攣女性からのご相談例「肛門痙攣のつらさ」

「わたしは、肛門が痙攣する症状をかかえています。肛門が痙攣すると前のほうのヴァギナやクリトリスも痙攣し、オーガズムが来てしまいます。

排便中も、便が直腸を通るときにオーガズムが来てしまうので、うつになり、切羽詰まって研究所に相談することになりました。

家族と同居していた高校の頃から痙攣は始まっていましたが、家族には言えず、そのまま家を出る形になりました。」

き) ワギニスムス女性からのご相談例「パイプやディルドだけを受け入れる私の体」

「私はワギニスムスという病気（心理状態）を抱えています。いつもは何ともなく過ごしているのに、いざセックスとなると、膣が強く収縮し、受け入れることができない症状です。

そのため、今でも処女ですが、寮でのリハビリ中、パイプやディルドなど、男性のもの以外のものであればすんなり挿入することができるので、原因は心理的なものだとわかっています。

幼少期に苦しいことがあったのだと思いますが、こうなったものはしかたがないので、このまま一生、男性を受け入れられなくても、あまり気にしないという心になれば、そ

れはそれでいいと思っています。

ただ、時々自暴自棄になって、ペットボトルなどを入れてオナニーするなど、パニック的なものも残っているので、そこは少しずつでも直していきたいです。」

く) ヴルヴォディニア女性からのご相談例「ヴルヴォディニアとの付き合い」

「わたしとヴルヴォディニアとの付き合いは、十年くらいになります。

性器全体に、快感と不快感が数日ごとに交互にやってきます。不快感がメインなので、PGAD というよりはヴルヴォディニアだと思います。

今は、いろいろなマスターベーションを覚えたことで、ずいぶん不快感が緩和できるようになりました。また、リハビリなどがうまくできるととても嬉しく、心理的にも安定してきています。」

2) 性器神経症の概要

女現研と連携している女子シェアハウスの一つでは、入居女性のおよそ半数は性器神経症を抱える女性で占められています。

性器神経症とは、性器（外性器、内性器）の神経系をめぐる異常知覚のうち、神経系そのもの（脳から末梢神経までをも含む）や他の身体部位に何ら異常所見の見当たらない自覚症状をいいます。かつていわゆる神経症（ノイローゼ）と呼ばれた症状が性器において心身症として（心の悩みと体の不調の相互作用の結果として）表れたものと考えればよいものです。

ただし、単に「性器神経症」と言っても、これはあくまでも日本語です。性器や性器周りの部位の症状は、国によって法律や医学界の見解が異なることもあって、症状名や学説にも一定のものはありません。

日本においては、本来法律上は性器とされていない部位（陰核、肛門、乳頭など）の神経症については、「性器神経症」と呼ぶことはできず、日本精神神経学会などの研究機関もこれに従っています。日本では特に、性器とそれ以外の部位（陰核、肛門、乳頭）の扱いは大きく異なり、分かりやすいところ言えば、アダルトコンテンツにおけるモザイク（ボカシ）の有無に如実にそのことが表れています。

ややこしいことに、陰核については、法律上の性器ではありませんが、モザイク（ボカシ）なしの写真の頒布等がわいせつ物頒布等の罪に問われた判例が多く、モザイク（ボカシ）を入れる必要がある部位だと解釈されています。しかし、「陰核が解剖学的に男性器の



陰茎と同じ海綿体から成り、性器としての扱いに準じるため」といった合理的説明は一度も成されていません。一方、肛門や乳頭については、モザイク無しの写真がそれのみでわいせつ物頒布等の罪に問われた判例はなく、実際のところNHKでも民法でも、女性の肛門や乳頭が映っている温泉番組や医療番組があります。

欧米、あるいは最近では東アジア諸国でも、部位によって「隠すべき」、「隠さなくてよい」といった厳然たる差別を設ける観念そのものがありませんので、日本人の性観念は世界的に見ても稀な特殊性を持っていると言えます。ただし、江戸時代までは、街中で子どもに授乳しても、今のような公然わいせつと見なされることはなく、現在の欧米や東アジアなど世界標準の性観念に近いものがありました。

しかし、現在の日本では、医学的意義よりも法律上の解釈に従って、陰核過敏症や肛門過敏症、乳頭過敏症などを性器神経症とは呼ばない場合が多くなっています。その場合、快感系ではヴァギナ部分のPGADのみが、不快感系ではヴルヴォディニアやワギニスムスのみが、性器神経症となります。陰核過敏症やクリトロディニアといった語を日本でほとんど聞かないのは、それが法律上では、女性器周辺であって、女性器とされていないからです。

ただし、私たちのシェアハウスでは便宜上、「性器神経症」の意味を翻訳前の(原義の英語やラテン語、ギリシャ語の)PGADやヴルヴォディニアなどと同じくらい広くとらえています。つまり、性器とその周辺部位(陰核、肛門、乳頭など)の神経症を、互いに関連の深いものとして、まとめて「性器神経症」として扱っています。特に快感系では、性器神経症の中心症状をヴァギナ部分の快感系のPGADとしつつ、本来は広義のPGADの一部である陰核過敏症などの他の快感系・不快感系の症状を、PGADと(区別しつつも)関連づけて説明しています。

なぜならば、女性器の快感・不快感は、法律上の性器よりも、陰核全体(陰核海綿体、陰核脚)や腰回り全体の興奮、ひいては脳の興奮の有無によるところが大きく、法律上の性器のPGADとは陰核過敏症や腰回り全体、ひいては脳の過敏症そのものである場合もあり、日本の法律上の解釈では説明がつかないからです。

2. 持続性性喚起症候群 (PGAD・PSAS)、 むずむず性器症候群 (ReGS・RGS)

1) PGAD・ReGSとは？

持続性性喚起症候群 (PGAD・Persistent genital arousal disorder・PSAS・Persistent Sexual Arousal Syndrome)は、



性欲とは何ら無関係に（性的な気分でもないときに）、性器が充血状態や性的興奮状態となり、不随意的に極めて強く持続的なオーガズム（性的絶頂感）に達し、これが続発してしまふ一連の症状群（性器神経症の一種）です。性器の充血などの前兆がない場合もあります。

俗に「イクイク病」とも呼ばれますが、もちろん正式な名称ではありません。医学的には、ICD-10 F45.3 F52 N94 において定義されています。

最近、欧米では「むずむず性器症候群 (ReGS・RGS)」という名称が提案されていますが、これは症状の激しいPGAD から症状の弱い「性器のむずむず感」までをより広くとらえた名称と言えます。とりわけオランダでは、PGAD を含む上位の概念として、ReGS を積極的に提唱しているようです。（下記のオランダのサイトもご覧ください。）

また、「Sexual」な気分とは関係がないケースも多いこと、「Genital」の異常興奮であることを強調するため、現在は PSAS よりも PGAD を積極的に使う医師や当事者が増えています。

症例はほぼ女性にしか確認されておらず、症状のほとんどが心理的な要因によるもので、女性器・身体には器質的な異常が見られません。

PGAD 女性が PGAD 発症時に得ているオーガズムの強度は、PGAD 女性がマスターベーションやセックスなどの通常の性行為で得ているものよりも強い傾向にあります。軽いケースもありますが、のた打ち回るケースもあり、さまざまです。

オーガズムに伴って性欲・性的な気分も高揚するとは限らず、羞恥心・罪悪感や希死念慮を覚えて自殺したケースもある一方で、逆に PGAD によって性的気分やオーガズムに溺れ、性依存症・ニンフォマニア（女子色情症）となったケースもあります。

次々に襲ってくるオーガズムによる羞恥心を抑制しようとするあまり、かえって次のオーガズムの早期の達成を求めて、マスターベーション依存となるケースもあります。

性器過敏（陰核過敏症など）や乳頭の知覚過敏も、不随意的なオーガズムや心地よい痙攣に達してしまう場合、PGAD の一種と考えられます。

また、基本的には違和感・疼痛を主症状とするヴルヴォディニア (Vulvodinia) やワギニスムス (膣痙・膣痙攣・Vaginismus) においても、女性によっては逆にオーガズムを感じるケースがあり、PGAD との区別はあいまいです。

違和感や疼痛がなくもっぱらオーガズムが連続するタイプの PGAD 女性でさえも、オーガズムの高揚感によって不倫や性犯罪を起こしやすくなるなどのデータは一切なく、むしろ患者は、しばしば強い羞恥心や第三者からの誤解・偏見への不安を覚えています。

重症の PGAD の場合、その強大なオーガズムや過敏症状（痙攣症状・ジンジン感・灼熱感・かゆみ）に陶醉しているケースもあり、ニンフォマニア（女子色情症）、パラフィリア（性的倒錯）の解説に示した精神症状のいずれかを併発していると考えられます。

2) 症状と原因は女性によってさまざま

基本的に、PGAD や陰核過敏症などは尋常ではない強度と持続性を持つオーガズム（つまり「快感」）を特徴とし、 Vulvodynia やワギニスムスなどは違和感・疼痛（つまり「不快感」）を特徴としますが、症状は女性の人数だけあると言え、これらの症状が複雑に混ざり合っている女性もいます。



マスターベーションや女性どうしの性行為の最中、あるいは通常の生活時には PGAD や陰核過敏症を引き起こすにもかかわらず、異性との性交時には Vulvodynia やワギニスムスを引き起こし、結局性交が成立しない女性もいます。このように、「異性への嫌悪感」や「同性への愛着」が根底にある女性の場合、幼少期・児童期の性的虐待の影響による発症の可能性も考えられます。

長期間に渡り性欲やオーガズムがなかったり乏しかったりした女性がこれらを発症することもあります。また、オーガズム体感中や性器の痙攣中に、脱水症状に陥るほどの尿漏れや膣液漏れ（いわゆる「潮吹き」）、発汗を起こす女性も見られます。

PGAD・ReGS の症状と原因は、もちろん女性によりさまざまであり、ひとくくりにすることはできませんし、どれも滑稽だと笑ってはいけないものです。

ただし、いくつかのパターンや特徴というものはあります。

驚かれるかもしれませんが、ほとんどの PGAD の原因は、ひと言で言えば「長期に渡る性欲不足と性器の不使用」です。その反動が、PGAD となって現れます。

ほかの病気と間違えないためにも、ここでは私たち会員の症状や考えられる原因を中心に、経験上分かっていることを掲載しておきます。

もしかしたら PGAD かもしれないと悩んでいる女性のご参考になれば幸いです。

また、ここに書いた内容は、PGAD・ReGS だけでなく、別に解説している 陰核過敏症（クリトリス痙攣）、 Vulvodynia（Vulvodynia）、ワギニスムス（膣痙攣・膣痙攣・Vaginismus）、クリトロディニア（Clitorodinia）、肛門痙攣、乳頭・乳輪・乳房過敏、副乳頭（Polythelia）・副乳輪（Polythelia Areolaris）・副乳房（Polymastia）過敏などにも当てはまるものとなっています。

3) PGAD・ReGS の詳しい症状

* 性欲とは何ら無関係に（性的な気分でもないときに）、性器が充血状態や性的興奮状態

となり、不随意的に極めて強く持続的なオーガズム（性的絶頂感）に達し、これが続発してしまう。

（特発性と持続性が備わっていることがポイントです。特発性とは、原因が不明であることを指します。性器の充血などの前兆がない場合もあります。）

* 心理的な反応は女性によってまちまち。

（激しいオーガズムに驚いて羞恥心・罪悪感・希死念慮を覚えたり、逆に、性的快感の嬉しさ・生きる喜び・陶酔感を覚えたりする。自殺したケースから性依存症・ニンフォマニアとなったケースまで様々。）

* 回数は、数ヶ月や数日に一回～一日に数十回。

（海外では、一日に 100 回～200 回を超えるようなケースも時々報告されており、自殺した女性もいます。）

* 持続時間は、一回につき数秒～数時間。

（海外では、一日に計 20 時間を超えるようなケースも時々報告されており、自殺した女性もいます。）

* オーガズムの強さは、通常の性行為で得られるよりも強い場合が多い。軽いケースから、のた打ち回るケースまで、さまざま。

（誤解されると困るのですが、性行為のテクニックの問題ではなく、実際にマスターベーションをして比べてみると、PGAD のときのオーガズムのほうが、体の内部から出てくる感じで、耐え抜くのに力がある感覚であることが多いです。）

* 性欲とは無関係の場合が多いが、オーガズムと一緒に性欲が高まる場合もある。

* 逆に、性欲が高まっているときほどなりやすい女性もいる。

* 膣・クリトリス・肛門の激しい痙攣や、ジンジン感・灼熱感・かゆみなどを伴うこともある。

* オーガズムと一緒に尿漏れや膣液漏れを起こしてしまう場合もある。

（いわゆる「潮吹き」のことです。PGAD の症状が起きそうな日や時期には、ほぼ生理のときと同じ準備をして通勤する女性もいます。）

* 尿漏れや膣液漏れ、発汗や発熱により脱水症状になることもある。

* PGAD になりやすい日や時期にマスターベーションをしようとする、指で少し触れただけでオーガズムに達することもある。

* 少しの刺激が引き金になるケースがある。

（排尿・排便、電車の揺れ、シャワー、入浴中のお湯の動き、くしゃみ、咳、寝返り、歩行中の陰部と下着・生理用品のこすれや大腿部どうしのこすれ、椅子に座るとき・座っているとき・立ち上がるとき、自転車に乗っているとき、人に肩を叩かれたとき、話しかけられたとき、など。）

* 特定のものを食べたり飲んだりしたときだけオーガズムに達する女性もいる。

（チョコレート、コーヒー、アイスクリーム、唐辛子、イカ、アサリ、パイナップル）

- * 乳首・髪・ワキ・ヘソなど、性器や性器周辺以外の部位に触れたときにも起きることがある。
- * いつもは極度の潔癖症・不潔恐怖だが、マスターベーションになると、なりふり構わず熱中してしまう。
- * 通常は性的興奮を呼び起こすとは思えないようなものを見て、性的興奮状態となりオーガズムに達したりしてしまうケースもある。
(特定の文字を見ていて性器が興奮し濡れてしまう、花が咲いているのを見ていてオーガズムに達してしまう、など。)

4) PGAD・ReGSの詳しい原因

あ) 心理的な原因の場合 (8割くらいはこれが原因)

- * PGAD発症の時期までは、長期間に渡って性欲が乏しかったか、まったくなかった。あるいは、女性としての自分の体を憎らしく感じていた。
(幼少期・児童期にいじめ・性的虐待を受けた経験や、電車内で痴漢に遭ったり職場でセクハラを受けたりした経験により、性に嫌悪感やトラウマがある。また、強制わいせつやレイプなどの重大な性的暴行に遭った過去があり、女性として性についての一般的・平均的な観念が麻痺していたり、それを形成することがまったくできなかった。)
- * あるいは、そのような性的虐待・性的暴行において、それ以上加害者を怒らせないために、あえて心とは裏腹に体を提供していたことがある。
- * いわゆる「お医者さんごっこ (Playing doctor)」や「人形遊び (見立て遊び)」のような経験がまったくなく、「自分 (人間) は本物の性器を持つ存在である」という認識が長期間にわたってなかった。あるいは逆に、これらのごっこ遊びや見立て遊びの中で、弱い女性の役割を演じさせられたり、性的虐待・性的暴行を受けたりした経験があり、女性が一般的に持つような、安心感に裏付けられた性的好奇心やリビドーが形成されなかった。
- * PGAD発症の前頃から、急に性欲や性への興味を覚えるようになった。また、マスターベーションの回数が急に増えた。
- * 極度の潔癖症・不潔恐怖。
- * 体の成長 (特に第二性徴) は一般的な女性そのもので、何らかの発達遅れがあるわけでもない。

い) 経験的・身体的な原因の場合 (性器を長期間に渡り使用しないこと、 いわば「性器の運動不足」による何らかの身体異常)

* PGAD 発症の時期まで性器 (クリトリス・膣) を性行為に用いたことがほとんどなかったか、一切なかった。

(性器に触れるのが入浴時や排尿・排便時における洗浄時や生理の処理のときの意図しない瞬間のみで、性器がマスターベーションやセックスによる一定以上の動きのある性的・物理的な刺激にさらされた経験が、PGAD 発症の時期までほとんどなかった。)

* 今現在もマスターベーションやセックスの経験がないか、またはマスターベーションのみか、膣内をまったく使用しない女性間の性行為のみである。

* 長期間に渡って、性器の刺激の方法 (指でばかりする、性器を布団や座布団など一定のものに押し付ける、など) や用いる道具 (ローター・バイブレーターなどの既製品や独自のもの) を変えたことがなく、マンネリ化している。

* マスターベーションや PGAD のときだけ容易にオーガズムに達することができるが、他人との性行為では物理的な刺激によっても心理的にもまったくオーガズムに達することができない。

* 自身による、または他人との性行為の機会が、まったくないか、極端に少ないため、動物のようにオールヌードになり、性器・肛門・乳頭などのデリケートな部位が空気に触れる (さらされる) 時間が極端に少ない。

(バスルームでは、オールヌードになるものの、お湯・湯煙・湿気にさらされているだけで、あまり PGAD には効果が生じない。)

う) 体・姿勢・神経系・骨格・筋肉などのゆがみが原因の場合

(生活習慣や病気によるもの、生まれつきのもの、など)

* いつも同じ向きに寝ている、同じ側の脚ばかりを上組んでいる、同じ側の肩ばかりにショルダーバッグをかけている、など。

* 椎間板ヘルニア・坐骨神経痛など、腰・骨盤・大腿部・背中周りの痛み・違和感を抱えている。

* 病気で手術をしてから、PGAD の症状が強くなるようになった。

* 脊椎側彎症である。

え) チック症、トゥレット障害が原因の場合

* 性器、肛門、乳頭に突発的または持続的な快感や不快感が押し寄せるだけでなく、頭や手足が勝手に動く、まばたきの回数が不自然に多い、顔をしかめてしまう、勝手に声が出るなどの症状 (チック症、トゥレット障害) があり、PGAD・ReGS の症状もその一環であると考えられる。

* また、PGAD・ReGS の症状と同時に、不随意的に猥雑な言葉を発する音声チック症

状が出ることがある (→ 汚言症・猥褻語多用癖 (コプロラリア・Coprolalia))。

お) 外傷・手術が原因の場合

- * 性器周辺や骨盤、腰に打撲・骨折などのケガをし、何らかの後遺症を負っている。または、頭部を強打したこと (頭部の外傷を伴う虐待・暴行を受けたこと) がある。
- * 外傷とまでは言えないが、指で陰部をさわるマスターベーションではなく、布団に陰部を押し付けたり、手のひらの圧力や重いもので陰部を圧迫するマスターベーションを長年繰り返しているため、神経系・骨格・筋肉・内臓の位置関係に何らかのズレがある。
- * 性的虐待・強制わいせつ・レイプの被害に遭ったときに、膣内やクリトリスに異常な行為をされたことがある。
- * 過去に軽度・中程度の PGAD (らしき症状) を発症した際、美容整形外科などで陰核を切除してもらったりボトックス注射を打ってもらうなどした結果、何らかの異常により、かえって以前よりも PGAD の症状が強くなるようになった。

か) 薬の副作用が原因の場合

- * 何らかの薬を飲んだ後、またはやめた後に PGAD が発症した、または PGAD の症状が強くなるようになった。
(特に、精神的な不安定さから、抗うつ剤・抗不安薬・睡眠薬などを飲んだりやめたりしてそのようになることが多い。ただし、女性の体質にもよる。)

き) 尿意の我慢、便秘が原因の場合

- * 尿意を我慢するクセが身に付いてしまっている。膀胱炎や腎盂炎を抱えている。
- * 便秘体質である。

く) 生理が原因の場合

- * 生理中にのみ PGAD になる、または、生理中にのみ PGAD が収まる。
(私たちも、まだ探究中で、生理との関係は不明のままです。)

け) 年齢的な原因の場合

- * 現在、初潮期・成長期・10代~30代であるか、逆に閉経期・更年期障害・50代~60代の時期にいる。

こ) 性感染症・性病が原因の場合

* 性感染症・性病により PGAD が生じることもあります。ただし、そのような女性におかれましては、当寮の保健・衛生状態を維持するため、入寮以前に検査をお願いしております。入寮案内をご覧ください。

5) 日本での認知度と扱っている診療科

子宮がんや乳がんのように、ほぼ「女性特有の症状」であるにもかかわらず、その独特の「恥ずかしさ」から、患者の女性が公言することは少なく、これらの存在は女性にもほとんど知られていません。

日本では、これらの診断名を直接的に付ける医師・病院はほとんど存在せず、現状では、患者の主な診療科は、婦人科、泌尿器科、神経内科、心療内科、精神科となっています。

PGAD は、性依存症・性的倒錯・ニンフォマニア（女子色情症）などの性関連障害と診断されることがあるほか、過去の異常な性体験のトラウマが原因とされて心的外傷後ストレス障害（PTSD）と診断されることもあります。

ただし、稀に外傷性のものや外傷時のショック症状によるものも見られますので、性的虐待を受けたり頭部外傷を負った心当たりのある女性は注意すべきです。

(詳しい説明は、下記リンク先のサイトをご覧ください。)



6) 社会生活・職業選択の難しさとリハビリ

外出先における激しく連続的なオーガズムの喚起や、オーガズムのはずみによる尿漏れ・膣液漏れ（いわゆる「潮吹き」）・発汗を抑えるため、静音型のローターやバイブレーターを持ち歩き、トイレ内などである程度以上の強い性的刺激によるマスターベーションや「潮吹き」をする必要がある女性もいます。いわば「溜まったオーガズムや潮を吐き出す」行為と言え、こうすることで、数時間から一日は不随意的なオーガズムや潮吹きを抑制できる女性もいます。

それでもやはり、一日中職場に居続けるような仕事に就くことは怖くてできない女性もいるのが現状です。

その上、性玩具を使用しても性器や体液に指や手が直接触れてしまうことがあるため、少なくとも一日に数回のマスターベーションや「潮吹き」が必要な女性の場合、衛生面で

の配慮が求められる飲食業や医療関係職などの夢を諦めることもあります。

自らの不随意的なオーガズムや「潮吹き」への心理的な対応は実に様々で、PTSD やうつ病となり、自殺に至った女性から、オーガズムや「潮吹き」を楽しみ、マスターベーション・セックス・女性間性行為などに生かしている女性までおり、自暴自棄になったり逆に自由奔放になったりして AV 出演や性風俗業就業にまで至った女性もいます。

従って、「PGAD 女性は皆苦しんでいる」といったイメージもまた正しいとは言えません。むしろ PGAD は、症状そのもの以上に、女性自身の心理や性倫理、職業選択と深い関わりがあると言えます。

7) レイプ・強制わいせつ・痴漢被害の喜びと PGAD (日本女性の「襲われたい」願望の歴史)

かつて尊属殺重罰規定について違憲判決が出るきっかけとなった代表的な事件には、栃木実父殺害事件が挙げられます。これは、実父との間に多数の子を設けた娘が、自分を強姦した実父を殺害した事件です。この判決以来、四親等以内の親族に対する殺人も、一般殺人と同等の罪となりました。

ところが、それは法律・司法上の判断であり、精神医学上は、この事件は全く異なる形で注目されました。なぜならば、娘自身が、ついに「性行為そのものに快感がなかったと言えば嘘になる」と語り、殺害の目的が実父への復讐ではない（例えば、子が増えて養育するのが面倒だといった理由による）ことを白状したからです。実際、性行為は何百回にも及んでいながら、稀にしか明確な抵抗を行っていないことも分かってきました。これによって、日本国民は、この判決まで（とりわけ江戸時代から明治・大正・戦前まで）日本各地で続いてきた近親相姦の歴史を、かえって見せつけられる結果となりました。日本はあくまでも、この判決によって初めて、本当のインセスト・タブーを達成したにすぎないのでした。

このように、レイプ、夜這い、強制わいせつ、痴漢被害などによってかえって性に目覚める女性は今も日本に一定の割合いることを知らなければなりません。このような女性たちは、現代の法律や精神医学では通常、マインドコントロール下やストックホルム症候群に陥った「被害者」として処理されます。しかし、女性が、「性行為を拒否しなくてよかった」、「あの嬉しい出来事がなければ、一生性を楽しむことがなかった」と語るなど、女性本人の性の喜びの主張が強硬である場合、それは、その女性の人生が前に進むための手助けをする意味でも、本当の性の目覚めとして扱うべきだと女現研では考えています。その目覚め方が、社会一般とは異なるというだけです。

実際に私たちのシェアハウスには、性被害によって快感や長期的な PGAD が生じ、かえって性を楽しんでいる女性が多く入居しています。親族女性が加害者である場合には、被

害女性にレズビアンとの感情が生じ、女性間の性行為を楽しむようになっているケースも多いです。私たちのシェアハウスでは、後者のケースが非常に多くなっています。その性觀念が家族・親族に理解されず、縁を切り、当シェアハウスを最後の居場所として選んだ女性が多いです。

8) PGAD・ReGS 治療の先進国アメリカ・オランダと、解説サイト (海外) の紹介

●ここにおけるPGAD・ReGSの解説は、主にこれらの海外の医学サイトや各関連症状の項に掲げた医学文献を参考文献とし、分かりやすく翻訳したものです。

陰核過敏症やヴルヴォディニアなどの各症状の解説と参考文献・サイトは、症状ごとの項をご覧ください。

●欧米では、あくまでも西洋医学に基づき、PGAD・ReGS や陰核過敏症の症状緩和・軽減のための陰核切除や陰核包皮の抱合手術などを受けることができる医療体制が整っています。

PGAD・ReGS 治療の先進国はアメリカとオランダであり、アメリカは医学全体をリードしていて新しい病気の登場に敏感であるため、事情は分かりますが、オランダについては、売春合法国であることや、LGBT 先進国であることが影響していると考えられます。

(男性も女性もあけっぴろげに性症状を相互に報告しやすく、性病・性感染症の知識も一般市民にまで比較的よく浸透しているようです。)

オランダでは、売春婦が生業としての売春を行うためにこそ、性器の外科手術や美容整形手術、オーガズム増進手術を受けています。

従って、オランダを訪れば、PGAD・ReGS についての知識・情報は豊富に得られるかと思いますが、日本人女性患者が訪れる場合には、「性についての恥」のとらえ方がオランダ人女性と日本人女性とで大きく異なることを理解しておく必要があります。

●当シェアハウスでは、まずは外科手術よりも「今ある体」を使ったマスターベーションによるPGAD対策をお勧めしておりますので、とりあえずは海外サイトの情報のみを紹介しており、それ以降は女性各自に自己責任として慎重に判断していただいております。

(私たちが実際に自宅や寮で試してみて、異常なオーガズムが緩和・軽減されたマスターベーションの方法などもありますので、まずはこちらについて私たちにご相談いただくことをお勧めいたします。)

※ 特に国名の但し書きのないサイトは英語が中心のサイト、但し書きがあるサイトは非英語サイトの英語ページです。

PGAD Support (PGAD コミュニティ代表者のサイト)

<http://www.psas-support.com/main/>

女性現実研究所 (Women's Real-Life Research Laboratory、WRLRL、ウィルール)

Restless Genital Syndrome (オランダのサイト)

<http://www.restlessgenitalsyndrome.com/en/>

Persistent Sexual Arousal Syndrome (Boston University School of Medicine)

<http://www.bumc.bu.edu/sexualmedicine/informationssessions/persistent-sexual-arousal-syndrome/>

Persistent Genital Arousal Disorder (Sexual Health Australia)

http://www.sexualhealthaustralia.com.au/page/persistent_genital_arousal_disorder_pgad.html

Persistent Genital Arousal Disorder (PGAD) - Restless Genital Syndrome (ReGS)
(オランダのサイト)

<http://www.psas.nl/en/>



'I get constant sexual arousal and this condition is ruining my life'

(GULF NEWS)

<http://gulfnnews.com/opinions/bloggers/health-matters-1.1176931/i-get-constant-sexual-arousal-and-this-condition-is-ruining-my-life-1.1319326>

PGAD or Persistent Genital Arousal Disorder

(Daily World Buzz)

<http://www.dailyworldbuzz.com/pgad-or-persistent-genital-arousal-disorder/3649/>

Too Much Of A Good Thing

(Women's Health Foundation)

<http://womenshealthfoundation.org/2011/02/24/too-much-of-a-good-thing/>

Persistent genital arousal disorder (Wikipedia)

https://en.wikipedia.org/wiki/Persistent_genital_arousal_disorder

9) 日本 (や韓国・中国) での PGAD・ReGS のとらえ方と、 解説サイト (国内) の紹介

●日本では、PGAD・ReGS の知識・情報の社会への浸透が遅れており、またこれらの症状や患者の存在を知っている医療関係者・医学界においても、あまり積極的に取り上げることはないようです。

この現状には、日常生活においては性に関することを大っぴらに語り合うことがないのに (「恥」の精神)、一方で AV・アダルトコンテンツは大量に作られているという独特の文化的・社会的な背景があると考えられます。

事実、PGAD にかかっている女性がレイプ被害を喜ぶという設定で制作された AV も多くあります。

(逆に、PGAD の女性がオーガズム依存や自暴自棄になり、体質を生かそうとして AV に出演してしまう問題については、PGAD 女性の「自殺か AV 出演か」問題をご覧ください。

●PGAD の症状の緩和・軽減を (美容のついでに) 謳う外科手術の中でも、特に日本・韓国・中国における美容整形や婦人科形成、女性器整形の外科手術としての陰核切除や陰核包皮の抱合には問題が多く、お勧めいたしません。

●当シェアハウスでは、まずは外科手術よりも「今ある体」を使ったマスターベーションによる PGAD 対策をお勧めしております。

(私たちが実際に自宅やシェアハウスで試してみても、異常なオーガズムが緩和・軽減されたマスターベーションの方法などもありますので、まずはこちらについて私たちにご相談いただくことをお勧めいたします。)

持続性性喚起症候群 (Wikipedia)

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%8C%81%E7%B6%9A%E6%80%A7%E6%80%A7%E5%96%9A%E8%B5%B7%E7%97%87%E5%80%99%E7%BE%A4>

1日に100回もイっちゃう! オーガズムが終わらない病気とは

https://web.archive.org/web/20160406210140/http://www.excite.co.jp/News/woman_cfm/20120905/Gowmagazine_00002223.html

1日に何度もイってしまう持続性性喚起症候群 (PGAD) とは? (下記サイト内)

<http://sex-happily.com/tisiki/zatugaku/psas.html>

女の子のセックス初心者講座

セックスライフを楽しもう♪



↓以下のように、PGAD の症状（激しいオーガズムや性欲）に耐えきれず、いっそのことこれらの症状を活かして AV 女優や性風俗嬢になろうとする（なった）女性も多くいますが、私たちは、医学的な観点からも心理的な観点からも決しておすすめしません。私たちのように、女子シェアハウス内で友達どうしの性器に触れ合うなど、犯罪被害に遭わないやり方をすべきです。

また、以下の記事は、『コミック裏モノジャパン Vol.15』（裏モノジャパン、2005 年 3 月号増刊、2005 年 3 月 9 日発行、鉄人社）の「私はイクイク病の女」（p.258-271）からの盗作か無断転用である可能性もあります。

あくまでも解説サイトとしてご参照下さい。

これはもはや、快感というより拷問。私は“イクイク病”の女。（下記サイト内）

<http://www.lovebonita.jp/real/?no=051006>



国内ラジオでは、「PSAS（持続性性喚起症候群）という病気」（文化放送「井筒とマツコ 禁断のラジオ」内）で PGAD が紹介されたことがあります。

10) PGAD・ReGS の解説動画（海外でのニュース・特集や日本人の作成動画）

動画を集めてリンクしています。海外の動画のほうが、興味本位でない医学的な解説をしてくれている傾向にあるようです。

- [国内ラジオでの紹介「PSAS（持続性性喚起症候群）という病気」（文化放送「井筒とマツコ 禁断のラジオ」内）](#)
- [“イクイク病”の女性。壮絶な快感のかなり珍しい奇病！1日50回以上の絶頂！あなたには理解出来ますか？](#)
- [イクイク病と8歳から闘っている女性の壮絶な人生！かなり珍しい奇病 PSAS 快感ではなく恐ろしい事](#)
- [イクイク症候群？50回も連続で！？PSASという恐ろしい病気と壮絶な人生](#)
- [イクイク病～もはや拷問・持続性性喚起症候群（PSAS）日本人女性も被害に...](#)
- [50 Orgasms A Day: Amanda Gryce Finds Love As She Searches For Cure](#)
- [Woman Suffering From Rare Disorder Has 50 Orgasms A Day](#)

11) 治療・外科手術のための海外渡航について

持続性性喚起症候群（PGAD・PGAD）や性器・肛門痙攣の治療・手術は、技術的にも法律的にも日本では導入が遅れているため、どうしても海外に渡って治療・外科手術を受けようとする女性がいらっしゃいます。

日本では、これらの患者の主な診療科は婦人科、泌尿器科、神経内科、心療内科、精神科となっており、外科手術は美容整形外科や婦人科形成科、女性器整形科などによって行われている一方で、欧米（特にアメリカ・オランダ）では、精神医学と外科手術の連携がとられており、正式な診断を受けた上で、どうしても外科手術を受けたいと希望すれば、陰核切除や陰核包皮の抱合など、これらのオーガズム・性器異常専門の手術を受けることが可能です。

強く持続的なオーガズムや性器・肛門痙攣に苦しむ会員女性については、本人の意志を尊重し、私たちのシェアハウス・事務局から海外渡航費や滞在費を援助することがございます。ただし、保険の有無の問題など、自己責任の部分も多々ありますので、私たちとしては、普段は海外の医療機関のサイトなどを紹介する程度で、それ以降は女性各自に自己責任として慎重に判断していただいております。

元より PGAD の症状の原因のほとんどは心理的なものであるため、私たちとしては、まずは、あくまでも「今ある体」を使ったマスターベーションによる PGAD 対策をお勧めいたします。

（私たちが実際に試してみても、異常なオーガズムが緩和・軽減されたマスターベーションの方法などもありますので、まずはこちらについて私たちにご相談いただくことをお勧めいたします。）

PGAD の症状の緩和・軽減を（美容のついでに）謳う外科手術の中でも、特に日本・韓国・中国における美容整形や婦人科形成、女性器整形の外科手術としての陰核切除や陰核

包皮の抱合には問題が多く、お勧めいたしません。

同じ陰核切除や陰核包皮の抱合と言っても、日本、特に韓国・中国の美容整形外科におけるそれらは、アメリカやオランダの西洋医学的な外科手術とは異なり、美容・整形・性感を意識したもので、もしそれらの外科手術を受けて PGAD の症状が緩和・軽減されたとしても、大金を支払っただけのプラシーボ効果である可能性もあります。

欧米で手術を受ける場合、PGAD による過剰なオーガズムを軽減するための陰核切除や陰核包皮の抱合なども、以下のように、オーガズム不全の女性が感度を高めてオーガズムを得たり、性器に疼痛のある女性が疼痛を軽減したりするための「女性器切除」の専門医が担当することが多く、女性のオーガズム・性器全般に詳しい専門医が多いため、一度相談してみることも自体は有効でしょう。

女性器切除による感度と痛みの改善

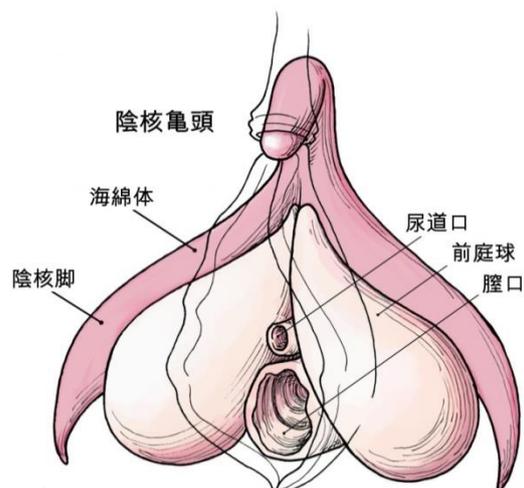
<http://www.medister.info/wordpress/newsblog/?p=573>

3. PGAD と陰核過敏症 (クリトリス痙攣)

PGAD と陰核過敏症 (クリトリス痙攣とも。医学的には、ICD-10 F45.3 F52 N94 において定義) の違いは、オーガズム (性的絶頂感) の出どころ (発生場所・感覚器官) と強度の違い、そして、快感以外の症状 (痙攣症状・ジンジン感・灼熱感・かゆみ) の割合の違いだと言えます。

(オーガズム自体を感じているのは脳です。)

PGAD や陰核過敏症を見る上で知っておかなければならないことは、陰核 (クリトリス) は、女性器解剖図や、女性のオーガズムの種類と仕組みの解説で分かるように、体外の陰核亀頭から体内の陰核脚までを含むとても大きな器官だということです。



PGAD は、クリトリスを含む性器全体（膣、陰唇、尿道口、膣前庭、ポルチオなど）や性器周辺（子宮、腰、大腿部など）、時には脇腹、脇の下、腕、肩、脚にまで強烈なオーガズムが押し寄せる症状であるのに対し、陰核過敏症は、あくまでもクリトリスの過敏症であるため、快感・オーガズム以外の過敏症状（痙攣症状・ジンジン感・灼熱感・かゆみ）も現れます。

ただし、前述のように、クリトリスはとても大きな組織であり、陰核過敏症であっても、陰核脚の末端にまでオーガズムが達するなど、PGAD に近い広範囲での強度のオーガズムを感じているケースもあります。しかし、ほとんどの陰核過敏症では、クリトリスに何となく快感または不快感・違和感があるのみで、普通に社会生活を送ることができます。

重症の陰核過敏症の場合、その強大なオーガズムや過敏症状（痙攣症状・ジンジン感・灼熱感・かゆみ）に陶醉しているケースもあり、ニンフォマニア（女子色情症）、パラフィリア（性的倒錯）のページに示した精神症状のいずれかを併発していると考えられます。

PGAD、ReGS、陰核過敏症（クリトリス痙攣）の症例の記録と研究もご覧下さい。

参考文献（画像引用文献）

DSM-5. American Psychiatric Association. 2013.

Woodall, Camay (2014). Exploring the Essentials of Healthy Personality: What is Normal? 2. ABC-CLIO. ISBN 1440831955. Retrieved December 10, 2014.

Weiten, Wayne; Dunn, Dana S.; Hammer, Elizabeth Yost (2011). Psychology Applied to Modern Life: Adjustment in the 21st century. Cengage Learning. ISBN 978-1-111-18663-0. Retrieved November 9, 2013.

Joanna B. Korda, MD et al. (2009-02-18). "Persistent Genital Arousal Disorder: A Case Report in a Woman with Lifelong PGAD Where Serendipitous Administration of Varenicline Tartrate Resulted in Symptomatic Improvement".

<http://www3.interscience.wiley.com/journal/122208819/abstract>

Feldhaus-Dahir, M (2011). "The causes and prevalence of vestibulodynia: A vulvar pain disorder". Urologic nursing 31 (1): 51-4. PMID 21542444.

Persistent genital arousal disorder brings woman agony, not ecstasy, Tampa Bay Times, 30 Nov 2012. Retrieved Dec 2012.

<http://www.tampabay.com/features/humaninterest/persistent-genital-arousal-disorder-brings-woman-agony-not-ecstasy/1263980>

Bergeron, Sophie; Binik, Yitzchak M.; Khalife, Samir; Meana, Marta; Berkley, Karen J.; Pagidas, Kelly (1997). "The treatment of vulvar vestibulitis syndrome: Towards a multimodal approach". Sexual and Marital Therapy 12 (4): 305.

Brotto, L. A.; Sadownik, L; Thomson, S (2010). "Impact of educational seminars on women with provoked vestibulodynia". Journal of obstetrics and gynaecology

女性現実研究所 (Women's Real-Life Research Laboratory、WRLRL、ウィルール)

Canada 32 (2): 132-8. PMID 20181314.

Kellogg-Spadt, S (October 2003). "Differential Diagnosis of Pelvic Floor Dysfunction and Vulvar Pain". Retrieved 2012-09-11.

<http://www.medscape.org/viewarticle/465853>

Sexual syndrome that takes joy out of life

<http://www.peeep.us/6286fbb2>

Persistent genital arousal disorder (Wikipedia)

http://en.wikipedia.org/wiki/Persistent_genital_arousal_disorder

Clitoris (Wikipedia)

<http://en.wikipedia.org/wiki/Clitoris>

Persistent Genital Arousal Disorder (PGAD) - Restless Genital Syndrome (ReGS)
(オランダのサイト)

<http://www.psas.nl/en/>

'I get constant sexual arousal and this condition is ruining my life'

(GULF NEWS)

<http://gulfnnews.com/opinions/bloggers/health-matters-1.1176931/i-get-constant-sexual-arousal-and-this-condition-is-ruining-my-life-1.1319326>

PGAD or Persistent Genital Arousal Disorder

(Daily World Buzz)

<http://www.dailyworldbuzz.com/pgad-or-persistent-genital-arousal-disorder/3649/>

Too Much Of A Good Thing

(Women's Health Foundation)

<http://womenshealthfoundation.org/2011/02/24/too-much-of-a-good-thing/>

陰核 (Wikipedia)

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%99%B0%E6%A0%B8>

4. PGAD と vulvodynia (Vulvodynia)、
ワギニスムス (陰痙・陰痙攣・Vaginismus)、

クリトロディニア (Clitorodinia)、肛門痙攣

PGAD の周辺には、似た症状のもの (性的快感を伴う性器神経症など) や、発生メカニズム (心の状態や痙攣・神経症状) が似ているのに自覚症状が逆のもの (不快感・疼痛を伴う性器神経症など) がいくつかあります。

おおまかには、次のように分けられます。違いは、ほぼ「快感・オーガズムか、不快感・疼痛か」のみで、痙攣症状・ジンジン感・灼熱感・かゆみなどはいずれにおいても見られます。かゆみ一つを見ても、オーガズムに近い快感のようなかゆみの場合もあれば、不快なかゆみの場合もあり、必ずしも区別がつくわけではありません。

◆快感・恍惚感・陶酔感を主症状とするもの (弱い快感程度のものから、強度の持続的なオーガズム・性的絶頂感を伴うものまで)

- ICD-10 F45.3 F52 N94 持続性性喚起症候群 (PGAD・PGAD)
- ICD-10 F45.3 F52 N94 むずむず性器症候群 (ReGS・RGS)
- ICD-10 F45.3 F52 N94 陰核過敏症 (クリトリス痙攣)
- ICD-10 F45.3 K59.4 肛門過敏症 (肛門痙攣)
- ICD-10 Q83.1 ICD-10 Q83.3 乳頭・乳輪・乳房過敏
- ICD-10 Q83.1 ICD-10 Q83.3 副乳頭 (Polythelia)・副乳輪 (Polythelia Areolaris)・副乳房 (Polymastia) 過敏

◆不快感・違和感・疼痛を主症状とするもの (弱い不快感程度のものから、強度のジンジン感・灼熱感・痛みを伴うものまで)

- ICD-10 F45.3 F52 N94 ヴルヴォディニア (Vulvodinia) : 外陰部全体 (ヴァルヴァ・Vulva) の不快感について言う
- ICD-10 F45.3 F52.5 N94.2 ワギニスムス (膣痙攣・膣痙攣・Vaginismus)
- ICD-10 F45.3 F52 N94 クリトロディニア (Clitorodinia) : クリトリスの不快感について言う
- ICD-10 F45.3 F52 N94 クリトリス疼痛 (クリコディニア) : クリトリスの疼痛について言う
- ICD-10 F45.3 K59.4 肛門痙攣の一部

基本的に、PGAD や陰核過敏症などは尋常ではない強度と持続性を持つオーガズム (つまり「快感」) を特徴とし、ヴルヴォディニアやワギニスムスなどは違和感・疼痛 (つまり「不快感」) を特徴としますが、症状は女性の人数だけあると言え、これらの症状が複雑に混ざり合っている女性もいます。実際には、自らの異常な知覚が快感・オーガズムであるか不快感・疼痛であるかを判別できないケースや、オーガズムを疼痛 (または疼痛をオー

ガズム) と自覚しているケースが多くなっています。

私たちのシェアハウスの女性にも、マスターベーションや女性どうしの性行為の最中、あるいは通常の生活時には PGAD や陰核過敏症を引き起こすにもかかわらず、異性との性交時にはウルヴォディニアやワギニスムスを引き起こし、結局性交が成立しない女性もいます。このように、「異性への嫌悪感」や「同性への愛着」が根底にある女性の場合、幼少期・児童期の性的虐待の影響による発症の可能性も考えられます。

また、女性器や女性器周辺部位、乳頭以外にも、耳の後ろやワキの下などに通常では考えられないオーガズム・違和感・疼痛などが発生する女性もいます。

重症の場合、その強大な快感・オーガズムや不快感・疼痛に陶酔しているケースもあり、ニンフォマニア (女子色情症)、パラフィリア (性的倒錯) のページに示した精神症状のいずれかを併発していると考えられます。

ウルヴォディニア、ワギニスムス、クリトロディニアの症例の記録と研究や、肛門過敏症 (肛門痙攣) の症例の記録と研究の記録と研究もご覧下さい。

参考文献 (画像引用文献)

DSM-5. American Psychiatric Association. 2013.

Brotto LA, Sadownik L, Thomson S (February 2010). "Impact of educational seminars on women with provoked vestibulodynia". J Obstet Gynaecol Can 32 (2): 132-8. PMID 20181314.

Joanna B. Korda, MD et al. (2009-02-18). "Persistent Genital Arousal Disorder: A Case Report in a Woman with Lifelong PGAD Where Serendipitous Administration of Varenicline Tartrate Resulted in Symptomatic Improvement".

<http://www3.interscience.wiley.com/journal/122208819/abstract>

Feldhaus-Dahir, M (2011). "The causes and prevalence of vestibulodynia: A vulvar pain disorder". Urologic nursing 31 (1): 51-4. PMID 21542444.

Persistent genital arousal disorder brings woman agony, not ecstasy, Tampa Bay Times, 30 Nov 2012. Retrieved Dec 2012.

<http://www.tampabay.com/features/humaninterest/persistent-genital-arousal-disorder-brings-woman-agony-not-ecstasy/1263980>

Bergeron, Sophie; Binik, Yitzchak M.; Khalife, Samir; Meana, Marta; Berkley, Karen J.; Pagidas, Kelly (1997). "The treatment of vulvar vestibulitis syndrome: Towards a multimodal approach". Sexual and Marital Therapy 12 (4): 305.

Brotto, L. A.; Sadownik, L; Thomson, S (2010). "Impact of educational seminars on women with provoked vestibulodynia". Journal of obstetrics and gynaecology Canada 32 (2): 132-8. PMID 20181314.

Kellogg-Spadt, S (October 2003). "Differential Diagnosis of Pelvic Floor

女性現実研究所 (Women's Real-Life Research Laboratory、WRLRL、ウィルール)

Dysfunction and Vulvar Pain". Retrieved 2012-09-11.

<http://www.medscape.org/viewarticle/465853>

Sexual syndrome that takes joy out of life

<http://www.peeep.us/6286fbb2>

Persistent genital arousal disorder (Wikipedia)

http://en.wikipedia.org/wiki/Persistent_genital_arousal_disorder

Vulvodynia (Wikipedia)

<https://en.wikipedia.org/wiki/Vulvodynia>

Vaginismus (Wikipedia)

<https://en.wikipedia.org/wiki/Vaginismus>

Persistent Genital Arousal Disorder (PGAD) - Restless Genital Syndrome (ReGS)
(オランダのサイト)

<http://www.psas.nl/en/>

'I get constant sexual arousal and this condition is ruining my life'

(GULF NEWS)

<http://gulfnews.com/opinions/bloggers/health-matters-1.1176931/i-get-constant-sexual-arousal-and-this-condition-is-ruining-my-life-1.1319326>

PGAD or Persistent Genital Arousal Disorder

(Daily World Buzz)

<http://www.dailyworldbuzz.com/pgad-or-persistent-genital-arousal-disorder/3649/>

Too Much Of A Good Thing

(Women's Health Foundation)

<http://womenshealthfoundation.org/2011/02/24/too-much-of-a-good-thing/>

ヴルヴォディニア (Wikipedia)

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%B4%E3%83%AB%E3%83%B4%E3%82%A9%E3%83%87%E3%82%A3%E3%83%8B%E3%82%A1>

膣痙攣 (Wikipedia)

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%86%A3%E7%97%99%E6%94%A3>

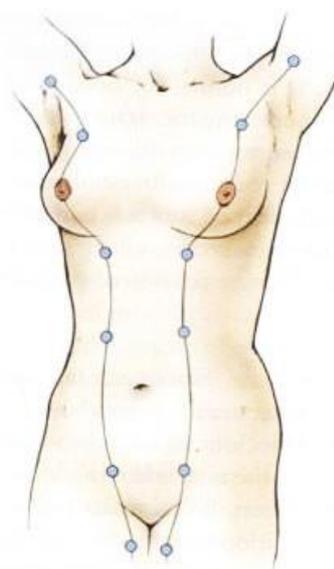
5. PGAD と乳頭・乳輪・乳房過敏、

副乳頭 (Polythelia) ・ 副乳輪 (Polythelia Areolaris) ・ 副乳房 (Polymastia) 過敏

まず、PGAD と乳頭・乳輪・乳房過敏の違いは、PGAD と陰核過敏症 (クリトリス痙攣) の違いと同じく、オーガズム (性的絶頂感) の出どころ (発生場所・感覚器官) と強度の違い、そして、快感以外の症状 (痙攣症状・ジンジン感・灼熱感・かゆみ) の割合の違いだと言えます。

(オーガズム自体を感じているのは脳です。)

また、乳頭・乳房における性的快感は、PGAD や陰核過敏症におけるいわゆるオーガズムとは異なりますし、体の中から湧き上がり襲ってくるような絶頂感ではなく、実際に触れること (性的刺激) によって感じる心地よさであると言えます。ただし、乳頭・乳房への性的刺激によって性器がオーガズムに達することのできる女性もあり、その場合は、体全体が通常の女性よりも過敏であり、かつ身体



の各部位の連携が密である体質であると言え、PGAD の発症確率も上がると考えられます。

副乳とは、通常の一対の主乳 (乳頭・乳輪・乳房) 以外に稀に存在する、ヒトの乳頭・乳輪・乳房を言います。

副乳には、副乳頭 (Polythelia、アクセサリー乳頭) や・副乳輪 (Polythelia Areolaris、アクセサリー乳輪) ・副乳房 (Polymastia、アクセサリー乳房) などがあり (乳輪だけが存在することは稀)、右図の乳腺堤と呼ばれるライン上に現れることが多いほか、男性よりも女性に多く見られ、その割合は女性の 2% とも 20% 以上とも言われます。

タレントの熊田曜子さんも、テレビで副乳があることを告白し、実際に副乳を披露していました。(判例はありませんが、副乳の露出は公然わいせつとされない可能性が高いです。)

ほとんどの場合、副乳 (特に副乳頭) を持っているというだけでは、主乳 (特に乳頭) に触れたときのようにすぐたさや性的快感は生じません。

しかし稀に、主乳 (通常乳頭・乳輪・乳房) に触れたときと同じか、それ以上の心地よさを副乳に感じる女性もいます。また、副乳頭・副乳輪・副乳房への性的刺激によって性器がオーガズムに達することのできる女性もいます。

その場合、たとえ PGAD によるオーガズムよりは軽度の心地よさであるとしても、通常の女性が性感帯を持たない場所に広範囲に性感帯を持っていると言える上、主乳も過敏症であるケースが多いようです。そのため、PGAD と同様に、衣服のこすれなどに気を遣う必要はあると言えます。

PGAD 女性の中には、その強烈で持続的なオーガズムについて、「性器が自分の体にたくさん付いているよう」と表現する女性もいます。世界的にも、副性器の報告はめったにありませんが、副乳はむしろ頻繁に見られる「哺乳類のなごり」で、言葉の形容ではない実際の器官であるため、マスターベーションなどに使用している女性もいます。

重症の場合、その強大なオーガズムや過敏症状（痙攣症状・ジンジン感・灼熱感・かゆみ）に陶酔しているケースもあり、ニンフォマニア（女子色情症）、パラフィリア（性的倒錯）のページに示した精神症状のいずれかを併発していると考えられます。

乳頭・乳輪・乳房過敏の症例の記録と研究の記録と研究もご覧下さい。

参考文献（画像引用文献）

DSM-5. American Psychiatric Association. 2013.

Robertson, Cameron (2 February 2005). "My 3 Nipples; Stunned Radio 1 DJ Jo tells of bizarre discovery". *The Mirror* (Trinity Mirror). Retrieved 9 April 2013.

<http://www.thefreelibrary.com/MY+3+NIPPLES%3B+Stunned+Radio+1+DJ+Jo+tells+of+bizarre+discovery.-a0128004293>

Fiona Roberts (20 July 2011). "Woman grows nipple on foot: Lily Allen and Zac Efron have extra nipples too | Mail Online". *Dailymail.co.uk*. Retrieved 4 February 2013.

<http://www.dailymail.co.uk/news/article-2016227/Woman-grows-nipple-foot-Lily-Allen-Zac-Efron-extra-nipples-too.html>

Joanna B. Korda, MD et al. (2009-02-18). "Persistent Genital Arousal Disorder: A Case Report in a Woman with Lifelong PGAD Where Serendipitous Administration of Varenicline Tartrate Resulted in Symptomatic Improvement".

<http://www3.interscience.wiley.com/journal/122208819/abstract>

Feldhaus-Dahir, M (2011). "The causes and prevalence of vestibulodynia: A vulvar pain disorder". *Urologic nursing* 31 (1): 51-4. PMID 21542444.

Persistent genital arousal disorder brings woman agony, not ecstasy, *Tampa Bay Times*, 30 Nov 2012. Retrieved Dec 2012.

<http://www.tampabay.com/features/humaninterest/persistent-genital-arousal-disorder-brings-woman-agony-not-ecstasy/1263980>

Bergeron, Sophie; Binik, Yitzchak M.; Khalife, Samir; Meana, Marta; Berkley, Karen J.; Pagidas, Kelly (1997). "The treatment of vulvar vestibulitis syndrome: Towards a multimodal approach". *Sexual and Marital Therapy* 12 (4): 305.

Brotto, L. A.; Sadownik, L; Thomson, S (2010). "Impact of educational seminars on women with provoked vestibulodynia". *Journal of obstetrics and gynaecology Canada* 32 (2): 132-8. PMID 20181314.

女性現実研究所 (Women's Real-Life Research Laboratory、WRLRL、ウィルール)

Kellogg-Spadt, S (October 2003). "Differential Diagnosis of Pelvic Floor Dysfunction and Vulvar Pain". Retrieved 2012-09-11.

<http://www.medscape.org/viewarticle/465853>

Sexual syndrome that takes joy out of life

<http://www.peeep.us/6286fbb2>

Persistent genital arousal disorder (Wikipedia)

http://en.wikipedia.org/wiki/Persistent_genital_arousal_disorder

Supernumerary nipple (Wikipedia)

http://en.wikipedia.org/wiki/Supernumerary_nipple

Accessory breast (Wikipedia)

http://en.wikipedia.org/wiki/Accessory_breast

Persistent Genital Arousal Disorder (PGAD) - Restless Genital Syndrome (ReGS)
(オランダのサイト)

<http://www.psas.nl/en/>

'I get constant sexual arousal and this condition is ruining my life'

(GULF NEWS)

<http://gulfnnews.com/opinions/bloggers/health-matters-1.1176931/i-get-constant-sexual-arousal-and-this-condition-is-ruining-my-life-1.1319326>

PGAD or Persistent Genital Arousal Disorder

(Daily World Buzz)

<http://www.dailyworldbuzz.com/pgad-or-persistent-genital-arousal-disorder/3649/>

Too Much Of A Good Thing

(Women's Health Foundation)

<http://womenshealthfoundation.org/2011/02/24/too-much-of-a-good-thing/>

副乳 (Wikipedia)

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%89%AF%E4%B9%B3>

6. 性器神経症の症例の記録と研究

1) 持続性性喚起症候群 (PGAD・PSAS)、むずむず性器症候群 (ReGS・RGS)、陰核過敏症 (クリトリス痙攣) の症例の記録と研究

私たちの以下の写真は、ほぼリハビリ前 (シェアハウス入居直後) からリハビリ期間中の身体を写した記録です。その後のリハビリや研究により、分かってきたことを列挙しておきます。

▼ 被写体の女性の年齢は 18 歳以上です。

▼ 陰毛の一部または全部を剃ってある例は、リハビリ (特に、別に解説した吸引療法や電気刺激療法) のため、女性自身の手で、または女性の許可を得て女性スタッフが剃ったものです。

* 特徴的な性器 (クリトリス・膣・陰唇) などを持っている女性もいるものの、多くのケースで、外見からだけでは、PGAD・ReGS などであること、それらが原因で就業・就学・家事ができなかったり悩み苦しんで寝込んでいたりすることは分からない。

* 挙げた写真のうち一部の女性は、波はあるものの、ほぼ一日中、恒常的に性欲やオーガズムを体験しつづけており、一般的な社会生活を営むことができていない。多くのケースで、オーガズムの広がる範囲が一般女性よりも大きく、性器・肛門のオーガズムと乳頭のオーガズムとがつながっていて、区別がない。全身がブルブルと震えたり部屋をのた打ち回らなければならないほどのオーガズムに達することもある。

* 生理中や妊娠中に PGAD・ReGS などの症状が強まるか弱まるかについては、女性それぞれで、一貫性や法則はない。そもそも、生理周期ではなく、性感帯のネットワークの過剰 (性器への暴行などによる神経系の激変がもたらしたオーガズムの異常発生) が原因と考えられる。

* リハビリのページに掲載している性器の吸引療法や電気刺激療法は、三分の二ほどの女性に効果があった。

■【この位置にある写真の閲覧を希望される一般女性の方は、メールにてお問い合わせください。また、シェアハウス内ではいつでも自由に閲覧できます。】

2) ヴルヴォディニア (Vulvodynia)、ワギニズムス (膣痙・膣痙攣・Vaginismus)、クリトロディニア (Clitorodynia) の症例の記録と研究

私たちの以下の写真は、ほぼリハビリ前 (シェアハウス入居直後) からリハビリ期間中の身体を写した記録です。その後のリハビリや研究により、分かってきたことを列挙しておきます。

- ▼ 被写体の女性の年齢は 18 歳以上です。
- ▼ 陰毛の一部または全部を剃ってある例は、リハビリ（特に、別に解説した吸引療法や電気刺激療法）のため、女性自身の手で、または女性の許可を得て女性スタッフが剃ったものです。
 - * 特徴的な性器（クリトリス・膣・陰唇）などを持っている女性もいるものの、多くのケースで、外見からだけでは、 vulvodynia・ワギニスムスなどであること、それらが原因で就業・就学・家事ができなかったり悩み苦しんで寝込んでいたりすることは分からない。
 - * 挙げた写真のうち一部の女性は、波はあるものの、ほぼ一日中、恒常的に性欲やオーガズム、または不快感や疼痛を体験しつづけており、一般的な社会生活を営むことができていない。オーガズムの場合、多くのケースで、オーガズムの広がる範囲が一般女性よりも大きく、性器・肛門のオーガズムと乳頭のオーガズムとがつながっていて、区別がない。全身がブルブルと震えたり部屋をのた打ち回らなければならないほどのオーガズムに達することもある。
 - * 生理中や妊娠中に vulvodynia・ワギニスムスなどの症状が強まるか弱まるかについては、女性それぞれで、一貫性や法則はない。そもそも、生理周期ではなく、性感帯のネットワークの過剰（性器への暴行などによる神経系の激変がもたらしたオーガズムの異常発生）が原因と考えられる。
 - * リハビリのページに掲載している性器の吸引療法や電気刺激療法は、三分の二ほどの女性に効果があった。

■【この位置にある写真の閲覧を希望される一般女性の方は、メールにてお問い合わせください。また、シェアハウス内ではいつでも自由に閲覧できます。】

3) 肛門過敏症（肛門痙攣）の症例の記録と研究

私たちの以下の写真は、ほぼリハビリ前（シェアハウス入居直後）からリハビリ期間中の身体を写した記録です。その後のリハビリや研究により、分かってきたことを列挙しておきます。

- ▼ 被写体の女性の年齢は 18 歳以上です。
- ▼ 陰毛の一部または全部を剃ってある例は、リハビリ（特に、別に解説した吸引療法や電気刺激療法）のため、女性自身の手で、または女性の許可を得て女性スタッフが剃ったものです。
 - * 特徴的な肛門を持っている女性もいるものの、多くのケースで、外見からだけでは、過敏症であること、過敏症が原因で就業・就学・家事ができなかったり悩み苦しんで寝込

んでいたりすることは分からない。

- * 便秘のときにやや高確率で肛門痙攣を発症しやすい。
- * 挙げた写真のうち一部の女性は、肛門入口への刺激だけで、性器（クリトリス・膣）や肛門がオーガズムに達してしまう。波はあるものの、ほぼ一日中、恒常的に性欲やオーガズムを体験しつづけており、一般的な社会生活を営むことができていない。多くのケースで、オーガズムの広がる範囲が一般女性よりも大きく、性器・肛門のオーガズムがつながっていて、区別がない。全身がブルブルと震えたり部屋をのた打ち回らなければならないほどのオーガズムに達することもある。
- * 生理中や妊娠中に肛門過敏の症状が強まるか弱まるかについては、女性それぞれで、一貫性や法則はない。そもそも、生理周期ではなく、性感帯のネットワークの過剰（性器への暴行などによる神経系の激変がもたらしたオーガズムの異常発生）が原因と考えられる。
- * リハビリのページに掲載している肛門の吸引療法や電気刺激療法は、半数ほどの女性に効果があった。

■【この位置にある写真の閲覧を希望される一般女性の方は、メールにてお問い合わせください。また、シェアハウス内ではいつでも自由に閲覧できます。】

4) 乳頭・乳輪・乳房過敏の症例の記録と研究

私たちの以下の写真は、ほぼリハビリ前（シェアハウス入居直後）からリハビリ期間中の身体を写した記録です。その後のリハビリや研究により、分かってきたことを列挙しておきます。

- ▼ 被写体の女性の年齢は 18 歳以上です。
- ▼ 陰毛の一部または全部を剃ってある例は、リハビリ（特に、別に解説した吸引療法や電気刺激療法）のため、女性自身の手で、または女性の許可を得て女性スタッフが剃ったものです。
- * 特徴的な乳頭・乳輪・乳房を持っている（明らかにそれらが肥大化している）女性もいるものの、多くのケースで、外見からだけでは、過敏症であること、過敏症が原因で就業・就学・家事ができなかったり悩み苦しんで寝込んでいたりすることは分からない。
- * 妊娠中でもないのに、遺伝的・偶発的な乳頭・乳輪・乳房の肥大化が起きたときに、乳頭・乳輪・乳房過敏を発症しやすい。
- * 挙げた写真のうち一部の女性は、乳頭への刺激だけで、性器（クリトリス・膣）や肛門がオーガズムに達してしまう。波はあるものの、ほぼ一日中、恒常的に性欲やオーガズムを体験しつづけており、一般的な社会生活を営むことができていない。多くのケースで、

オーガズムの広がる範囲が一般女性よりも大きく、性器・肛門のオーガズムと乳頭のオーガズムとがつながっていて、区別がない。全身がブルブルと震えたり部屋をのた打ち回らなければならないほどのオーガズムに達することもある。

* 生理中や妊娠中に乳頭・乳輪・乳房過敏の症状が強まるか弱まるかについては、女性それぞれで、一貫性や法則はない。そもそも、生理周期ではなく、性感帯のネットワークの過剰（性器への暴行などによる神経系の激変がもたらしたオーガズムの異常発生）が原因と考えられる。

* リハビリのページに掲載している乳頭・乳輪・乳房の吸引療法や電気刺激療法は、三分の二ほどの女性に効果があった。

■【この位置にある写真の閲覧を希望される一般女性の方は、メールにてお問い合わせください。また、シェアハウス内ではいつでも自由に閲覧できます。】

7. PGAD 女性の「自殺か AV 出演か」問題

日本での PGAD の認知度は、海外と比べてとても低くなっていますが、認知度のある海外でも、PGAD 女性は社会生活において様々な悩み苦しみを抱えているようです。

時には、羞恥心に耐えかねて、社会生活、そして人生そのものを諦めてしまうケースも見られます。強く持続的なオーガズムを感じてしまう自分、あるいは、そのようなオーガズムを抑制するために定期的にマスターベーションをしなければならない自分を、社会から隔絶した淫乱な女性であると見なしてしまうためです。

PGAD を苦しんで自殺した海外の女性の例

<http://www.dailymail.co.uk/news/article-2243118/Gretchen-Molannen-debilitating-sexual-arousal-disorder-commits-suicide.html>

PGAD では、次々に襲ってくるオーガズムによる羞恥心を抑制しようとするあまり、かえって次のオーガズムの早期の達成を求めて、マスターベーション依存となるケースもあります。そのために、いっそう自己嫌悪に陥るといった悪循環が生じてしまいます。

日本での自殺報告は、公式には存在しません。しかし、私たちのシェアハウスでも、残念ながら PGAD を苦しんで自殺者が複数出ています。日本の PGAD 患者の主な診療科が、婦人科、泌尿器科のほかは、神経内科、心療内科、精神科であり、また、ニフォマニアや性依存症、PTSD、不安障害などに振り分けられて診断されている以上、実際には PGAD に悩んで自ら命を絶った女性が他にいないとは断言できないところです。

先にも説明しましたが、PGAD のオーガズムそのものに苦しんで自殺するケースは海外

でも少なく、それに伴う羞恥心や社会生活の困難に悩んで自殺するケースが多いのです。特に日本ではその傾向が強いと思われ、当シェアハウスの女性たちの自殺も、オーガズム自体は好きだったのに、いつでも発生する快感のために仕事が手につかず、理由を職場に言えないまま、おかしい女性だと思われて解雇されたという理由によるものでした。この女性たちの一部は、前述したような「性被害で性に目覚めた」女性たちでした。

しかし一方で、PGAD による圧倒的なオーガズムに陶酔してしまい、やがてニンフォマニアや性依存症となり、「せっかくこのような体質を持っているのだから、この体質を活用し、AV (アダルトビデオ)・アダルトサイトに出演したり援助交際・売春をしよう」と考え、実行に移してしまう PGAD 女性がいるのも事実です。

さらに、「どうせこんなに淫乱な体だから」と自暴自棄になり、AV 出演・売春・性風俗業就業によって破滅的な生活に陥っていく PGAD 女性も見受けられます。

いわゆる AV やアダルト動画では、プロの女優が強烈なオーガズムに達したり大量の尿や膣液を噴出 (いわゆる「潮吹き」) しているかのようなシーンが見られますが、これらのほとんどは演技であり、体液の色に似せた水を使用していたりします。

しかし、AV に出演している女性の中には、それなりの人数の PGAD 女性が含まれているものとも考えられますし、確かに PGAD の症状を持っていれば、演技ではないオーガズムの達成や「潮吹き」ができることになります。

ただし、本人が自らの症状を PGAD と知っていて、あえて AV 出演の道を選んだのであれば、私たちは何も言えないのですが、本人が自らの症状を PGAD だとは知らず、自分がただ AV 出演向きの淫乱な女性であると思い込んでいる可能性がある場合は、まずは PGAD のことをよく知った上で、改めて自らの社会生活を見直す余地はあると考えます。

こうして見ると、PGAD 女性の人生は何も「自殺か、AV 出演・売春・性風俗業就業か」の二択であるはずがないですし、もっとバランスのとれた社会生活があるはずだと思います。

8. PGAD とニンフォマニア (女子色情症)、パラフィリア (性的倒錯)、フェティシズム、性依存症

1) ニンフォマニア (女子色情症)、パラフィリア (性的倒錯)、フェティシズム、性依存症の解説

PGAD や陰核過敏症などの広義の性器神経症と、ニンフォマニア (女子色情症・Nymphomania。医学的には、ICD-10 F52.7 F65 において定義) やパラフィリア (性的倒錯・Paraphilia。医学的には、ICD-10 F65 において定義)、フェティシズム (同前)、すなわち広義の性依存症との一番の違いは、オーガズムの異常か、性欲や性嗜好の異常か

の違いだと言えます。

まず、はっきりと区別がつけられるような初期段階では、性器や体の過敏症状に悩む性器神経症の女性に対して、ニンフォマニアなどの異常性欲・変態性欲だと決めつけないことが大切になってきます。

(ただし、一つの見方として、PGAD やニンフォマニアを量的異常としての異常性欲、パラフィリアやフェティシズムを質的異常としての異常性欲と見ることは可能です。)

普通は、女性がオーガズムに達している姿を異性愛の女性が目にする機会はまずありませんので、日常会話をしていて、その中でオーガズムの持続を告白されただけの場合、ただの異常性欲だと判断してしまうおそれがあり、注意が必要です。

ただし、PGAD でオーガズムが持続する生活をしているうちに、性欲が亢進し、ニンフォマニアやパラフィリア、女性どうしの性行為依存や AV 出演依存、売春依存になったり、逆にニンフォマニアやパラフィリアの女性が通常ではない性行為をおこなっているうちに PGAD を発症した例はあります。

日本では、区別がつきやすい初期段階の PGAD・陰核過敏症であっても、今も高い確率でニンフォマニアやパラフィリア、フェティシズムと診断されますが、研究が進んでいる海外でも、過敏症状が進んだり性欲亢進が見られるケースでは区別がつきにくいようです。

私たち女性スタッフおよび入居女性の中にも、これらが混ざり合った自覚症状となっているケースは多いです。また、同性愛者（レズビアン）の割合が高い私たちのような女性グループにおける性的倒錯は、男女間の性的倒錯とも大きく異なると言えます。

気分障害、不安障害・恐怖症・強迫性障害・PTSD、身体表現性障害、解離性障害、摂食障害など、他の精神症状を抱える場合、性的倒錯も発症しやすくなります。

また、持続性性喚起症候群 (PGAD)、むずむず性器症候群 (ReGS)、陰核過敏症 (クリトリス痙攣)、ヴルヴォディニア、ワギニスムス、クリトロディニア、肛門痙攣、乳頭・乳輪・乳房過敏、副乳頭・副乳輪・副乳房過敏などの身体症状で得た快感や不快感に陶酔し、それらをいっそう強く、あるいは連続して得たいと欲求するようになり、性的倒錯を発症するケースも多くなっています。

結局、症状の数は女性の人数だけあると言え、それぞれの女性に合わせた心と体のリハビリをしていくことが大切だと言えます。

2) パラフィリア (性的倒錯)、フェティシズムの類型リストおよび 女現研連携シェアハウスでの対応

以下は、PGAD や陰核過敏症を診断された私たち女性スタッフや入居女性が、同時に精神症状として診断・指摘された性的倒錯と、その例です。アメリカ精神医学会 (APA) の DSM、世界保健機関 (WHO) の ICD に従っています。

私たち女性の性的倒錯の多くは、過去の性被害などによる性観念の変化や崩壊（精神・認知のゆがみ）や、PGAD などの発症（性器・肛門やそれらの神経系自体の変容）に伴って形成され、発症したものとなっています。PGAD や陰核過敏症の女性の場合、性的対象が男性よりも自らの身体や女性の身体となりやすいことに特徴があります。

●アノレクタリ（異物肛虐愛・Anorectal）

<https://en.wikipedia.org/wiki/anorectal>

肛門や直腸に異物を挿入する性的嗜好。私たちのシェアハウスでも、一部の女性にボールペンや長い野菜による肛虐が見られますが、衛生上および安全上、海外の同様の女性施設にならない、アダルトグッズ（アナルビーズなど）で代用するよう呼びかけています。

●ウロフィリア、ウロラグニア（小便愛・Urophilia、Urolagnia）

<https://en.wikipedia.org/wiki/Urolagnia>

排尿行為や飲尿行為、尿そのものへの性的嗜好。私たちのシェアハウスでも、海外の同様の女性施設における暴露療法にならない、あえて自らの尿を観察する暴露療法を試しています。

飲尿行為については、後述の異食症（ピカ・ピサ・Pica）もご覧ください。

●クリスマフィリア（浣腸愛・Klismaphilia）

<https://en.wikipedia.org/wiki/Klismaphilia>

浣腸行為や、浣腸器具を用いた排泄行為、糞便への性的嗜好。私たちのシェアハウスでも、衛生上および安全上、海外の同様の女性施設にならない、医療用の浣腸器具やアダルトグッズ（アナルビーズなど）で代用するよう呼びかけています。

●コプロフィリア、コプロラグニア（糞便愛・糞尿愛好症・Coprophilia、Coprolagnia）

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%B3%9E%E5%B0%BF%E6%84%9B%E5%A5%BD%E7%97%87>

排便・排尿行為や食糞・飲尿行為、糞尿への性的嗜好。おもに糞便についていうが、本来は糞尿全般についての性的嗜好をいう。私たちのシェアハウスでも、重大な性的虐待（祖母や母、姉妹の糞便を食べさせられる、尿を飲まされるなど）を受けた女性などに倒錯的な食糞・飲尿の試みが見られますが、海外の同様の女性施設にならない、かりんとうやリンゴジュースなど、外見が類似した飲食品の一時的な大量摂取で気を紛らわせるなどの方法をとっています。

食糞・飲尿行為については、後述の異食症（ピカ・ピサ・Pica）もご覧ください。

●マゾヒズム（被虐性愛・Masochism）

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%9E%E3%82%BE%E3%83%92%E3%82%BA%E3%83%A0>

相手から性的虐待や性的暴力を受ける性的嗜好。私たちのシェアハウスでも、レイプされたい欲求、わいせつ行為を受けたい欲求、女性から性行為をされたい欲求などを持つ女性がいますが、海外の同様の女性施設にならない、裸でのスキンシップなどによる被虐性愛の減退を試みています。

DSM-III-R では、マゾヒ（キ）スティック（自己敗北性）パーソナリティ障害がパーソナリティ障害の一つとして提案されましたが、その後のDSMでは削除され、全面的に性的倒錯としての扱いとなりました。

●スカトロロジー (Scatology)

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B9%E3%82%AB%E3%83%88%E3%83%AD%E3%82%B8%E3%83%BC>

アノレクトル、ウロフィリア、クリスマフィリア、コプロフィリアをご参照ください。私たちのシェアハウスでも、衛生上および安全上の問題から、海外の同様の女性施設にならない、それぞれ異なる対応を行っています。

●アコースティックフィリア (音響性愛)

声や音への性的嗜好。特に、性的な声や音（膣液の音など）への性的嗜好。私たちのシェアハウスでも、海外の同様の女性施設にならない、生活上で女性どうしのトラブルが生じない限り、特に問題視していません。

●オルファクトフィリア、オスフレジオラグニア (体臭性愛・Olfactophilia、Ospresiolagnia)

<https://en.wikipedia.org/wiki/Olfactophilia>

汗や香水なども含めた体臭への性的嗜好。私たちのシェアハウスでも、海外の同様の女性施設にならない、生活上で女性どうしのトラブルが生じない限り、特に問題視していません。

●グレイブラスネス、ハイジニーナ (無毛性愛・Glabrousness)

<https://en.wikipedia.org/wiki/glabrousness>

腋毛や陰毛といった性毛の未発生状態や剃毛への性的嗜好。俗に「パイパン」と呼ばれる姿態に対する性愛の精神医学上の呼称です。私たちのシェアハウスでも、海外の同様の女性施設にならない、生活上で女性どうしのトラブルが生じない限り、特に問題視していません。欧米の若い女性では、むしろ女性の性器周りの剃毛やハイジニーナが流行しており、半ば常識と化しています。

●デフロランティズム (処女性愛・Deflorantism)

<https://en.wikipedia.org/wiki/Virginity>

処女や処女喪失への性的嗜好。私たちのシェアハウスでも、レイプ被害者（レイプまでは処女）の中に処女回帰願望を訴える女性と処女喪失の喜びを語る女性の両方がおり、処女の中にも処女の保持を望む女性とレイプによる処女喪失を望む女性の両方がいます。このような場合、レイプ以前にも、何らかの性被害を受けたり、性的トラウマを負っていると考えられます。

●ハイグロフィリア (分泌物性愛・Hygrophilia)

汗や涎などの分泌物への性的嗜好。私たちのシェアハウスでも、海外の同様の女性施設における暴露療法にならない、あえて自らの汗や涎を観察する暴露療法を試しています。

●ピゴフィリア (臀部性愛・Pygophilia)

臀部（尻）への性的嗜好。私たちのシェアハウスでも、海外の同様の女性施設にならない、生活上で女性どうしのトラブルが生じない限り、特に問題視していません。

●フート・フェティシズム、ポドフィリア (脚部性愛・Foot fetishism、Podophilia)

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%84%9A%E3%83%95%E3%82%A7%E3%83%86%E3%82%A3%E3%82%B7%E3%82%BA%E3%83%A0>

太股やふくらはぎ（腓腹筋）など脚（足）への性的嗜好。私たちのシェアハウスでも、海外の同様の女性施設にならない、生活上で女性どうしのトラブルが生じない限り、特に問題視していません。

●ブレスト・フェティシズム (胸部性愛・Breast fetishism)

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%83%B8%E3%83%95%E3%82%A7%E3%83%86%E3%82%A3%E3%82%B7%E3%82%BA%E3%83%A0>

乳房や乳首への性的嗜好。日本の縄文時代の土偶を見ても分かるように、世界的に太古の昔から見られる性的嗜好や崇拜形態の一つです。私たちのシェアハウスでも、海外の同様の女性施設にならない、生活上で女性どうしのトラブルが生じない限り、特に問題視していません。

●ペドフィリア (小児性愛・Pedophilia) : インファノフィリア (幼児性愛・Infantophilia)、ニンフォフィリア (児童性愛・Nymphophilia)、ニンフェット (少女性愛・Nymphet)、アリス・コンプレックス (少年性愛・Alice Complex)、ハイジ・コンプレックス (少年性愛・Heidi Complex)、白雪姫コンプレックス、フィロジニー (女性らしさ愛好・Philogyny)

などを含む。

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%9A%E3%83%89%E3%83%95%E3%82%A3%E3%83%AA%E3%82%A2>

私たちのシェアハウスでも、日本でも欧米諸国でも違法となるような行動については、厳しく禁じています。(児童ポルノの収集など。)

ただし、児童ポルノ処罰法の改正により、自らの児童期における性被害の記録・証拠写真の所持そのものに違法性が問われる可能性が出ているため、法改正には反対の立場をとっています。

●アンダーウェア・フェティズム (下着性愛・Underwear fetishism)

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%8B%E7%9D%80%E3%83%95%E3%82%A7%E3%83%86%E3%82%A3%E3%82%B7%E3%82%BA%E3%83%A0>

ブラジャーやパンティー、パンストやソックス、タイツなどの肌着や下着への性的嗜好。私たちのシェアハウスでも、海外の同様の女性施設にならない、生活上で女性どうしのトラブルが生じない限り、特に問題視していません。

●ミソフィリア (汚損性愛・Mysophilia)

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%B1%9A%E6%90%8D%E6%84%9B%E5%A5%BD%E7%97%87>

着用して汚れた衣服や下着、使用済み生理用品などへの性的嗜好。私たちのシェアハウスでも、衛生上および安全上、海外の同様の女性施設にならない、汚損物を見たり嗅いだりして心を落ち着ける行動にとどめてもらい、口を付けたり触ったりすることは避け、洗濯・清掃を徹底するよう呼びかけています。

●ポルノグラフィ・アディクション (Pornography addiction)

https://en.wikipedia.org/wiki/Pornography_addiction

写真やアダルトビデオなどの映像への性的嗜好。私たちのシェアハウスでも、海外の同様の女性施設にならない、中毒症状や、上記のペドフィリア (小児性愛・Pedophilia)、違法性が見られない限り、特に問題視していません。

●ユニフォーム・フェティズム (制服性愛・Uniform fetishism)

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%88%B6%E6%9C%8D%E3%83%95%E3%82%A7%E3%83%86%E3%82%A3%E3%82%B7%E3%82%BA%E3%83%A0>

制服やスポーツウェアなどの衣服への性的嗜好。私たちのシェアハウスでも、海外の同様の女性施設にならない、生活上で女性どうしのトラブルが生じない限り、特に問題視していません。

●アルゴラグニア (疼痛性愛・Algolagnia)

<https://en.wikipedia.org/wiki/Algolagnia>

疼痛 (とうつう、痛み) に遭遇するような悪条件環境や残虐な行為に遭遇する状況への性的嗜好。快感・オーガズムと不快感・疼痛の区別の自覚が難しいタイプのヴルヴォディニア、ワギニスムス、クリトロディニア、肛門痙攣の女性に多く見られます。私たちのシェアハウスでも、海外の同様の女性施設にならい、疼痛をオーガズムと間違えないため、マスターベーション療法を実践しています。

●エンドソーマフィリア (体内進入性愛・Endosomaphilia)

体内に進入 (侵入) する行為、または体内に存在する状況への性的嗜好。私たちのシェアハウスでも、怪物や病原菌が体内に侵入する悪夢にうなされる女性などについて、海外の同様の女性施設にならい、個室内の色彩やレイアウト、照明などに工夫を凝らしていません。

●コプロラリア、コプロラグニア (汚言症・猥褻語多用癖・猥語性愛・Coprolalia、Coprographia)

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%B1%9A%E8%A8%80%E7%97%87>

性的倒錯よりも、F95 チック障害・トウレット障害に伴うことが多い症状として知られています。私たちのシェアハウスでも、チック、トウレット障害を抱える入居女性に見られるため、海外の同様の女性施設にならい、特に取り上げ、あえて文学に生かす暴露療法を実践しています。(→ 汚言症・猥褻語多用癖・猥語性愛 (コプロラリア・Coprolalia) と、短歌・俳句・川柳によるリハビリ)

●ダクライフィリア、ダクライラグニア (泣哭性愛・Dacryphilia、Dacrylagnia)

<https://en.wikipedia.org/wiki/Dacryphilia>

泣くことや慟哭 (どうこく) などの泣哭 (きゅうこく) 行為、涙などへの性的嗜好。私たちのシェアハウスでも、一部の女性に、性被害の悲しみ自体ではなく、それに伴って流す涙のほうに関心が移動し、それが性的嗜好に移行したケースが見られます。

●ナレートフィリア (口述性愛・Narratophilia)

<https://en.wikipedia.org/wiki/narratophilia>

状況や行動、特に性的な状況や行動を常に解説したり口述 (ナレーション) する性的嗜好。私たちのシェアハウスでも、一部の女性に、「西暦 20XX 年 X 月 X 日、私〇〇〇〇の膣、クリトリス、肛門は被害を受け、大変な状況に陥りました」、「私は本日も、今から下着を脱ぎ、オナニーをします」などと解説する習慣が見られます。海外の同様の女性施設

にならない、生活上で女性どうしのトラブルが生じない限り、特に問題視していません。

●ハーマトフィリア (失態性愛・Harmatophilia)

何らかの失敗や失態行為への性的嗜好。私たちのシェアハウスでも、一部の女性に、意図的に下着やトイレ・浴室の床に排尿・排便するケースが見られます。衛生上および安全上、海外の同様の女性施設にならない、下着を汚損する程度の行動にとどめてもらい、口を付けたり触ったりすることは避け、洗濯・清掃を徹底するよう呼びかけています。

●ポリテロフィリア (性行為連続性愛・Polyterophilia)

多くの人数との連続する性行為や、何度も性行為を繰り返すことへの性的嗜好。私たちのシェアハウスでも、一部の女性に、一日の多くをマスターベーション・性器いじりに費やす性行為依存が見られます。海外の同様の女性施設にならない、食事やイベントの際に共用スペースに出てきてもらい、過剰で連続的な性行為の回避を試みています。

参考文献 (画像引用文献)

DSM-5. American Psychiatric Association. 2013.

“2012 ICD-10-CM Diagnosis Code F98.8 : Other specified behavioral and emotional disorders with onset usually occurring in childhood and adolescence”.
lcd10data.com. Retrieved 2012-06-22.

Joanna B. Korda, MD et al. (2009-02-18). “Persistent Genital Arousal Disorder: A Case Report in a Woman with Lifelong PGAD Where Serendipitous Administration of Varenicline Tartrate Resulted in Symptomatic Improvement”.

<http://www3.interscience.wiley.com/journal/122208819/abstract>

Feldhaus-Dahir, M (2011). “The causes and prevalence of vestibulodynia: A vulvar pain disorder”. Urologic nursing 31 (1): 51-4. PMID 21542444.

Persistent genital arousal disorder brings woman agony, not ecstasy, Tampa Bay Times, 30 Nov 2012. Retrieved Dec 2012.

<http://www.tampabay.com/features/humaninterest/persistent-genital-arousal-disorder-brings-woman-agony-not-ecstasy/1263980>

Bergeron, Sophie; Binik, Yitzchak M.; Khalife, Samir; Meana, Marta; Berkley, Karen J.; Pagidas, Kelly (1997). “The treatment of vulvar vestibulitis syndrome: Towards a multimodal approach”. Sexual and Marital Therapy 12 (4): 305.

Brotto, L. A.; Sadownik, L; Thomson, S (2010). “Impact of educational seminars on women with provoked vestibulodynia”. Journal of obstetrics and gynaecology Canada 32 (2): 132-8. PMID 20181314.

Kellogg-Spadt, S (October 2003). “Differential Diagnosis of Pelvic Floor

女性現実研究所 (Women's Real-Life Research Laboratory、WRLRL、ウィルール)

Dysfunction and Vulvar Pain". Retrieved 2012-09-11.

<http://www.medscape.org/viewarticle/465853>

Sexual syndrome that takes joy out of life

<http://www.peeep.us/6286fbb2>

Persistent genital arousal disorder (Wikipedia)

http://en.wikipedia.org/wiki/Persistent_genital_arousal_disorder

Hypersexuality (Wikipedia)

<http://en.wikipedia.org/wiki/Hypersexuality>

Sexual addiction (Wikipedia)

http://en.wikipedia.org/wiki/Sexual_addiction

Persistent Genital Arousal Disorder (PGAD) - Restless Genital Syndrome (ReGS)
(オランダのサイト)

<http://www.psas.nl/en/>

'I get constant sexual arousal and this condition is ruining my life'

(GULF NEWS)

<http://gulfnews.com/opinions/bloggers/health-matters-1.1176931/i-get-constant-sexual-arousal-and-this-condition-is-ruining-my-life-1.1319326>

PGAD or Persistent Genital Arousal Disorder

(Daily World Buzz)

<http://www.dailyworldbuzz.com/pgad-or-persistent-genital-arousal-disorder/3649/>

Too Much Of A Good Thing

(Women's Health Foundation)

<http://womenshealthfoundation.org/2011/02/24/too-much-of-a-good-thing/>

色情症 (Wikipedia)

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%89%B2%E6%83%85%E7%97%87>

9. 汚言症・猥褻語多用癖・猥語性愛 (コプロラリア・Coprolalia) と、
短歌・俳句・川柳によるリハビリ

性的言動コホートへ移動しました。

10. 異食症 (ピカ・ピサ・Pica) とパラフィリア (性的倒錯)、性器神経症

異食症 (ピカ・ピサ・Pica) とは、一般にその地域や文化で食用とされているもの以外のものを食してしまう症状です。何でも口に入れるカササギ (ラテン語で Pica) からこの名が付けました。

異食する物の特徴として、食用とされていない物であるほか、無栄養の物であることが挙げられます。最多のものは、土、砂、炭、灰、紙、粘土、チョーク、絵の具などです。しかし、海外ではセスナ機などの巨大なものを、長期間を要して丸ごと食した例もあります。以上の異食症は、摂食障害として扱われるケースが多いです。

一方、飲料を飲み干した後に残った氷を噛んで食べる行為も、広義の異食症とされる場合がありますが、この場合は、単なる水分の補給や、氷を噛む心地よさ、ストレスの発散、鉄分や亜鉛やセロトニンの不足などによるイライラ感から来る行動であることが多く、比較的よく見られます。これについては、ほとんどのケースで摂食障害とはされず、治療も不要です。

しかし、このほか、自分や人の体毛、爪、分泌物、涙、排泄物、唾液、血液などを飲食する者もいます。また中には、自分や人の着用した衣服を噛みちぎったり切り刻んだりして食する者もいます。とりわけ、自らの下着を食する女性には、性被害を受けている場合も多いです。

アダルトビデオでは、飲尿・食糞行為が一つのジャンルやシリーズと化しています。現在は男女間の行為よりも、むしろ女性どうしの行為を撮影したものが極めて多くなっており、このジャンルから、女性視聴者のあいだでの人気作品やアダルトビデオ関連の受賞作品が多く出ています。

しかし、これらの行為は、訓練でできるようになる性質のものではありません。AV女優・女性たちが撮影のためにあえて訓練するケースは極めて少なく、性被害、性依存、性症状などにより元から異食症である全国の女性たちが、自ら応募し、好んで撮影に参加しているケースがほとんどであると考えられます。

以上の異食症は、先に示したパラフィリア (性的倒錯) の類型リストのいくつかにも当てはまるため、パラフィリアとされるケースも多くなっています。また中には、飲尿・食糞・下着食などを行うと性器神経症の症状が軽減されると報告する女性もいますが、もっぱら心理的な作用によると考えられます。

私たちのシェアハウスにも、このような異食症の入居女性たちがいます。衛生上および安全上、他の入居女性も交えて話し合い、皆で一緒にこれらの女性たちの症状と向き合っ

ています。飲尿や食糞に比べれば衛生上の問題が少ない下着食については、異食症女性たちが使用する下着とは別に、異食用の下着（極めて噛み切りやすい、細い、あるいは湯水に溶けるようになっている、アダルト向けのランジェリーなど）を用意したり、異食症女性を含めた皆で下着の形をしたお菓子を作って思いきり食べるなどして、皆でリハビリに協力しています。

世界各地の原住民には、唾液交換や血液交換など、現代の異食症の中でも特異と言える文化を残している原住民もいます。彼らの目には、生物を殺して綺麗に調理し盛り付けるフランス料理のほうが、異食症と映るでしょう。日本の捕鯨・鯨食文化に対する世界各国や反捕鯨団体からの非難も、この文化を「異食・異常食」文化と見た動きだと言えます。

異食症は時代や文化、宗教によって様相が大きく異なる症状の一つと言えます。

ご協力女性など（被写体女性を含む）による性器神経症・性的心理の告白サイト一覧 （おもに女現研への相談やシェアハウスへの入居以前のもの）

性依存症の女性たちのブログ・サイト

- [私はセックス依存症](#)
- [SEX 依存症～私を抱いて～](#)
- [きっと変わる。（16歳です。3年間 sex 依存症でした。今は複雑性 PTSD、解離性障害、摂食障害など。）](#)
- [境界例な人格と付き合う日々（服薬&診察ともに終了しましたが、境界例寄りな人格との付き合いはまだまだ続く…。）](#)

ネット上の PGAD の悩み相談

- [持続性性喚起症候群ではないか？（イクイク病？）と悩んでおります。](#)（Yahoo!知恵袋）
- [持続性性喚起症候群に近い症状で困っています。高二女です。ほとんど常に性的に興奮状態でつらいです。](#)（Yahoo!知恵袋）
- [一度の性行為で5、6分で10回位オーガズムに達してしまいます。](#)（Yahoo!知恵袋）
- [陰部（クリ）の違和感 クリトリスが敏感に感じてしまい困ってます。](#)（ママ★スタジアム）
- [陰部（クリ）の違和感 クリトリスが敏感に感じてしまい困ってます。](#)（Yahoo!知恵袋）
- [持続性性喚起症候群じゃないかと思っています。オナニーがやめられません。私は凄く美味しいものを食べるとイキます。](#)（Yahoo!知恵袋）

- [生きていくのが苦しいです。自殺を考えています。持続性性喚起症候群のようなものに罹ってしまい毎日が地獄です。](#) (Yahoo!知恵袋)
- [性的絶頂が突然きて困っています 私は統合失調性です。たまに脳内が快感に襲われます。](#) (Yahoo!知恵袋)
- [寝ている時に、セックスをしていった時のような痙攣がします。](#) (Yahoo!知恵袋)
- [生きてる理由がないんです。持続性性喚起症候群のような症状もあります。毎日が苦痛で地獄だと思っています。](#) (Yahoo!知恵袋)
- [持続性性喚起症候群\(PSAS\)でしょうか？ 性器\(主にクリトリス\)がウズウズムラムラムします。](#) (AskDoctors)
- [クリトリスがムズムズして違和感があります](#) (OKWave)

ワギニスムスの女性たちのブログ・サイト

- [「良家」に生まれ育ったバージン巫女の奮闘日記](#)
- [アラサー処女バジ子の性交痛克服日記](#)
- [エッチ挿入時の痛い！を克服した元ワギニスムスの日記](#)
- [妄想好きの実践嫌いオナナの記録](#)
- [美しき30代「バージンじゃいられない！」](#)